

稲敷市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和3年10月

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	3
2 調査の対象.....	3
3 調査の方法.....	3
4 調査の実施時期.....	3
5 配布・回収の結果.....	3
6 報告書の表記及び注意点について.....	4
II 調査結果の分析.....	5
1 あなたのご自身のことについて.....	7
(1) 性別.....	7
(2) 年齢.....	7
(3) 職業.....	9
(4) 雇用形態.....	9
(5) 居住地区.....	10
(6) 世帯構成.....	10
(7) 要介護者の有無.....	11
(8) 結婚しているか.....	12
(9) 子どもの人数.....	13
(10) 《子どもがいる人》子どもの年代.....	15
(11) 《子どもの現実の人数が理想の人数より少ない方》理想より少ない理由.....	16
2 男女の平等に関する意識について.....	17
(1) 各分野における男女の地位に関する認識.....	17
(2) 男女平等になるために重要なこと.....	22
3 男女の生き方や家庭生活に関する意識について.....	23
(1) 「男性は仕事、女性は家庭」の考え方についての賛否.....	23
(2) 家庭の中で家事を主に行う人.....	24
(3) 結婚や子どもを持つことに関する意識.....	28
(4) 男女の生き方や家庭生活などに関する意識.....	31
(5) 《配偶者・パートナーがいる方》コロナ禍における夫婦間の役割分担の変化.....	35
4 就業について.....	36
(1) 仕事を選ぶ際に重視すること.....	36
(2) 女性が職業を持つことについての考え.....	37
(3) 女性が出産後も離職せずに働き続けるために必要なこと.....	38
(4) 仕事を辞めた経験の有無.....	39
(5) 《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた理由.....	39
5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について.....	41
(1) ワーク・ライフ・バランスの理想と現実.....	41
(2) 男性が家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと.....	43
6 女性の活躍について.....	45
(1) 女性リーダーを増やす上での障害.....	45
(2) 進路や職業を選択する際に性別を意識したか.....	46
(3) 女性リーダーの増加が社会に与える影響.....	48

7 人権・配偶者などからの暴力について.....	49
(1) DVを受けた経験の有無.....	49
(2) 《DVを受けたことがある人》DVの内容.....	50
(3) 《DVを受けたことがある人》受けたDVについて相談したか.....	51
(4) ハラスメントを受けた経験の有無.....	52
(5) 《ハラスメントを受けたことがある人》ハラスメントを受けた場所.....	53
(6) 《ハラスメントを受けたことがある人》受けたハラスメントについて相談したか.....	54
(7) 女性に対する暴力や悩みなどの相談窓口などで配慮してほしいこと.....	55
8 男女共同参画社会について.....	56
(1) 男女共同参画社会は達成できたと思うか.....	56
(2) 男女共同参画社会の実現のために自分にできること.....	57
(3) 男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度.....	58
(4) 男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れるべきこと.....	59
資料編.....	63
1 アンケート調査票.....	65

I 調査の概要

1 調査の目的

稲敷市では、男女共同参画社会の実現を重要課題の1つと掲げ、様々な取組を進めているところであるが、令和3年度においては現行の「第3次稲敷市男女共同参画計画」を見直し、新たな「第4次稲敷市男女共同参画計画」を策定する必要がある。このため、計画策定に際し、市民の男女共同参画社会に関する意識や意見を聞き、今後の市の取組への反映を図るための基礎資料を得るため、本調査を実施した。

2 調査の対象

20歳以上の稲敷市住民の中から、性別及び年齢、居住地区等を考慮し、無作為に抽出した2,000人

3 調査の方法

郵送による配布・回収

4 調査の実施時期

令和3年7月～8月

5 配布・回収の結果

配布票数	回収票数 【回収率】	無効票数 (※)	有効回答数 【有効回答率】
2,000票	721票 【36.1%】	3票	718件 【35.9%】

※無効票については、白紙またはそれに準ずるものを無効と判定した。

6 報告書の表記及び注意点について

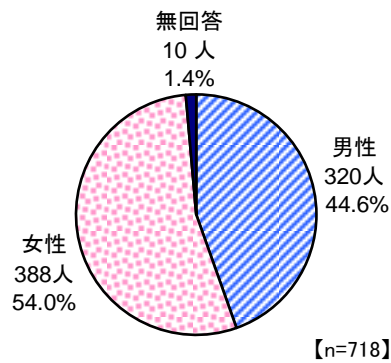
1. 回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える。
3. 説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表している。
4. グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「n」と表記し、その数を表している。

Ⅱ 調査結果の分析

1 あなたのご自身のことについて

(1) 性別

問1 自認する性別をお答えください。(○は1つ)

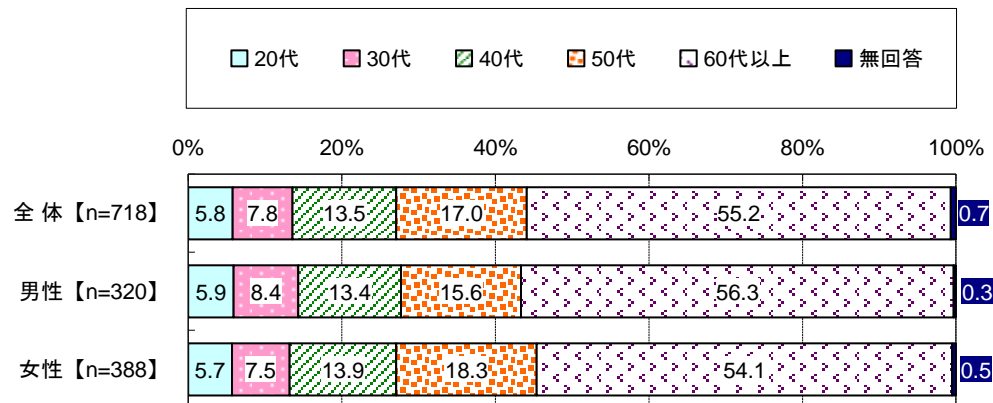


回答者の性別については、「男性」が320人で44.6%、「女性」が388人で54.0%と、女性が男性よりも多い構成となっている。

なお、無回答は10人で1.4%となっている。

(2) 年齢

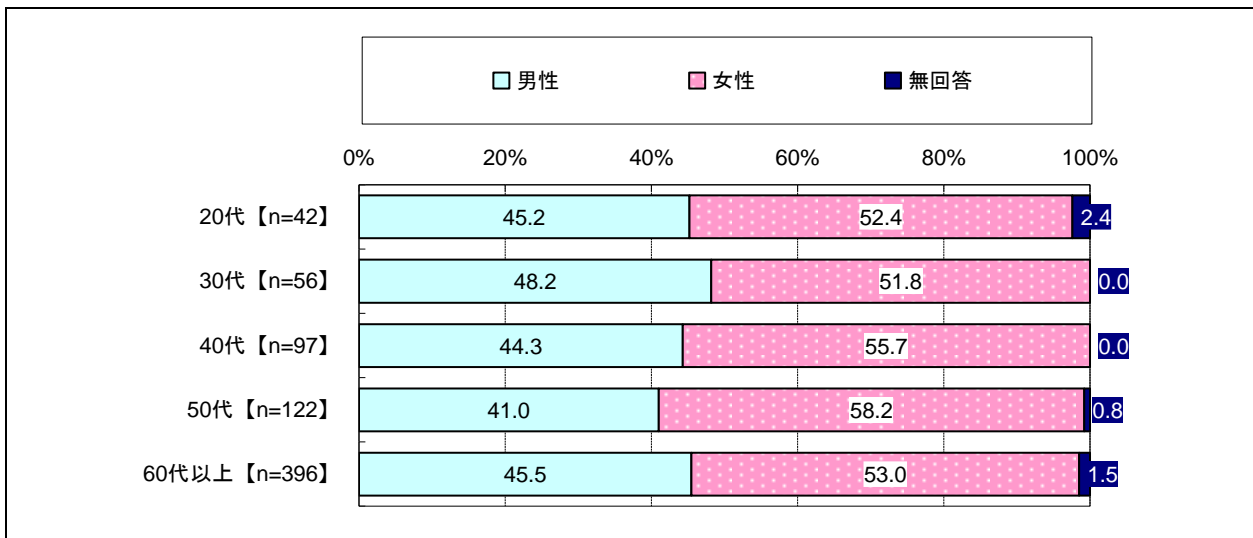
問2 年齢をお答えください。(○は1つ)



回答者の年齢構成は、全体では「60代以上」が55.2%で最も多く、以下、「50代」が17.0%、「40代」が13.5%、「30代」が7.8%、「20代」が5.8%と続いている。

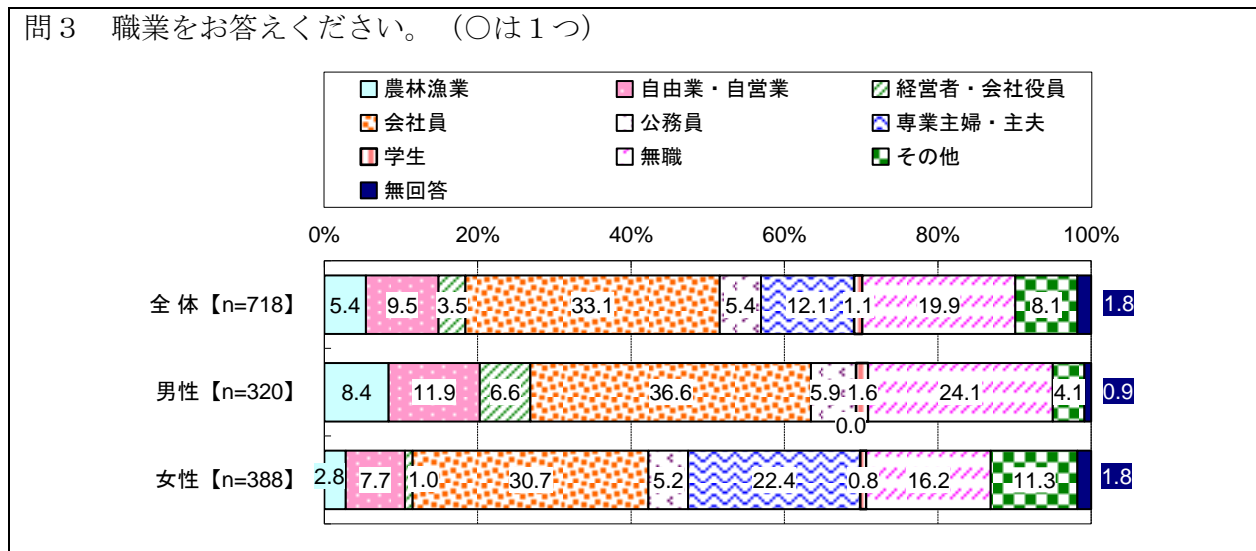
男女別にみると、男性のほうが女性よりも20～30代の構成比がやや高くなっている。

●年代×性別クロス集計



年代別に男女比をみると、すべての年代で女性の割合が男性より高くなっており、特に「50代」では女性の比率は約6割となっている。

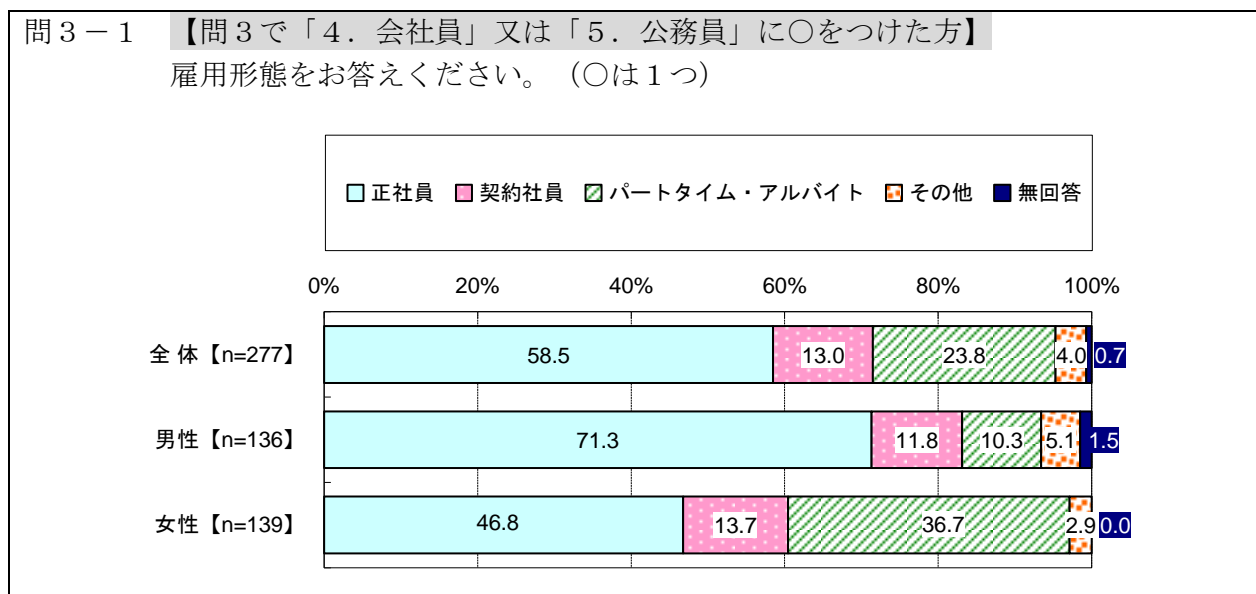
(3) 職業



回答者の職業については、全体では「会社員」が33.1%で最も多く、以下、「専業主婦・主夫」が12.1%、「自由業・自営業」が9.5%、「農林漁業」、「公務員」がともに5.4%、「経営者・会社役員」が3.5%、「学生」が1.1%などとなっている。一方、19.9%は「無職」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも「会社員」が最も多いものの、女性では「専業主婦・主夫」も2割程度と多くなっている。

(4) 雇用形態

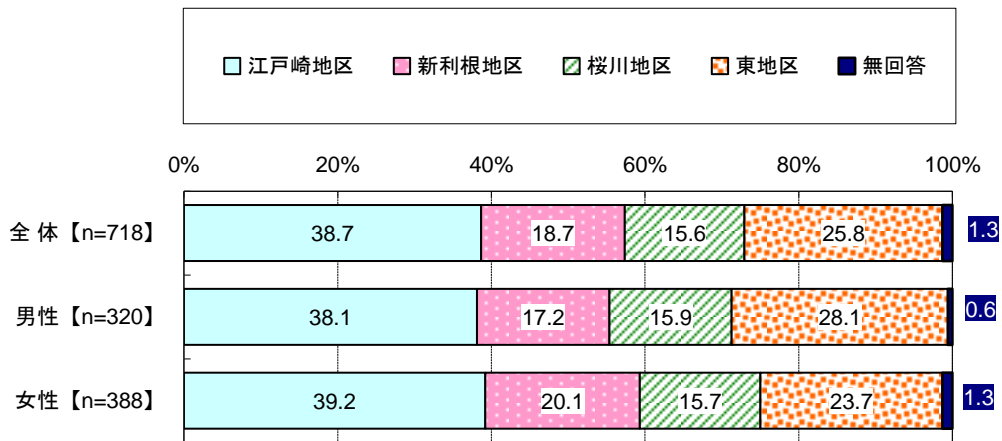


会社員もしくは公務員であると回答した人に、雇用形態について尋ねたところ、全体では「正社員」が58.5%で最も多く、以下、「パートタイム、アルバイト」が23.8%、「契約社員」が13.0%などと続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「正社員」が最も多くを占めている。女性については男性よりも「正社員」の割合が約25ポイント低く、その一方で「パートタイム、アルバイト」が4割近くとなっており、非正規社員の割合が男性よりも高いことが分かる。

(5) 居住地区

問4 現在お住まいの地区をお答えください。(〇は1つ)

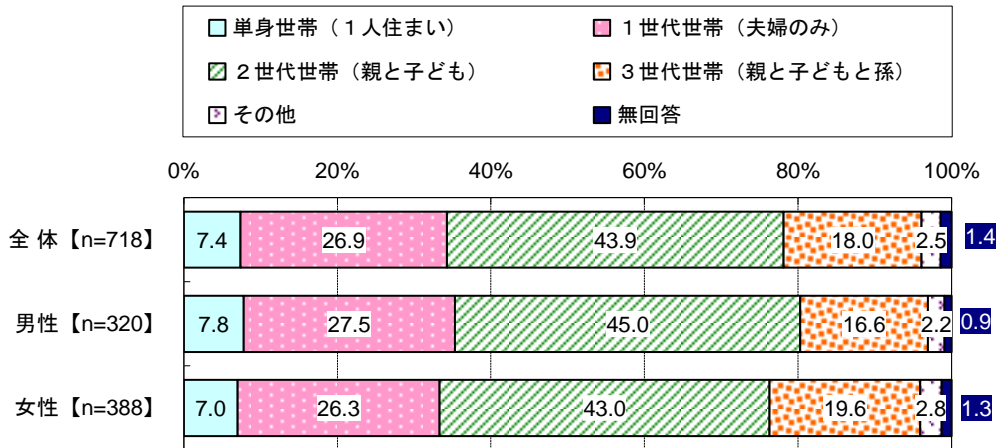


回答者の居住地区については、「江戸崎地区」が38.7%で最も多く、以下、「東地区」が25.8%、「新利根地区」が18.7%、「桜川地区」が15.6%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「江戸崎地区」が4割程度で最も多くを占めている。

(6) 世帯構成

問5 現在の世帯構成は、次のどれに当たりますか。(〇は1つ)

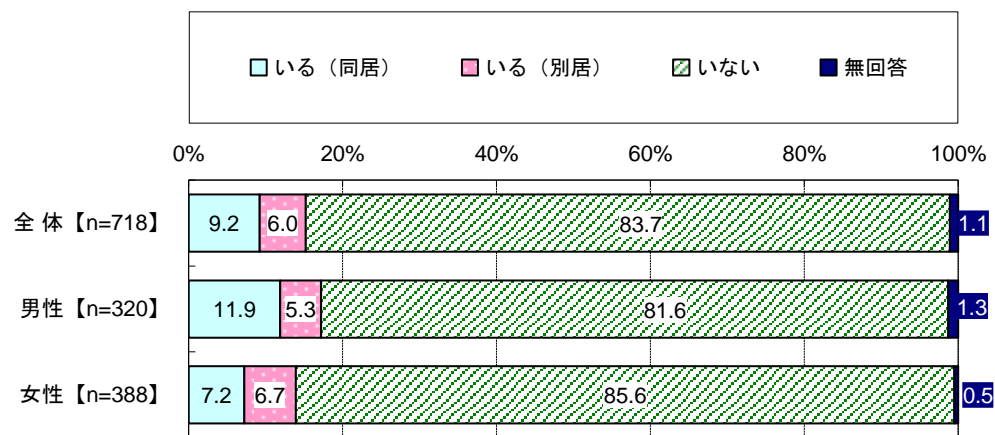


回答者の世帯構成については、「2世代世帯(親と子ども)」が43.9%で最も多いほか、「1世代世帯(夫婦のみ)」が26.9%、「3世代世帯(親と子どもと孫)」が18.0%、「単身世帯(1人住まい)」が7.4%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「2世代世帯(親と子ども)」が多くを占めている中で、男性では「単身世帯(1人住まい)」、「1世代世帯(夫婦のみ)」の割合が女性よりもやや高くなっている。

(7) 要介護者の有無

問6 あなたのお宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。(○は1つ)

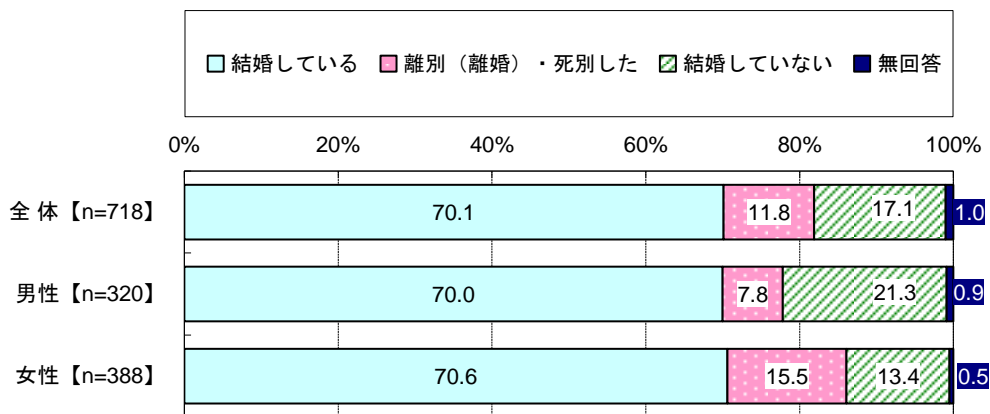


世帯に現在介護を必要とする高齢者が『いる』（「いる(同居)」と「いる(別居)」の合計)割合は、全体では15.2%となっており、そのうち9.2%が同居、6.0%が別居となっている。

男女別にみると、「いる(同居)」割合は、男性では11.9%、女性では7.2%となっており、男性の方が女性より高くなっている。

(8) 結婚しているか

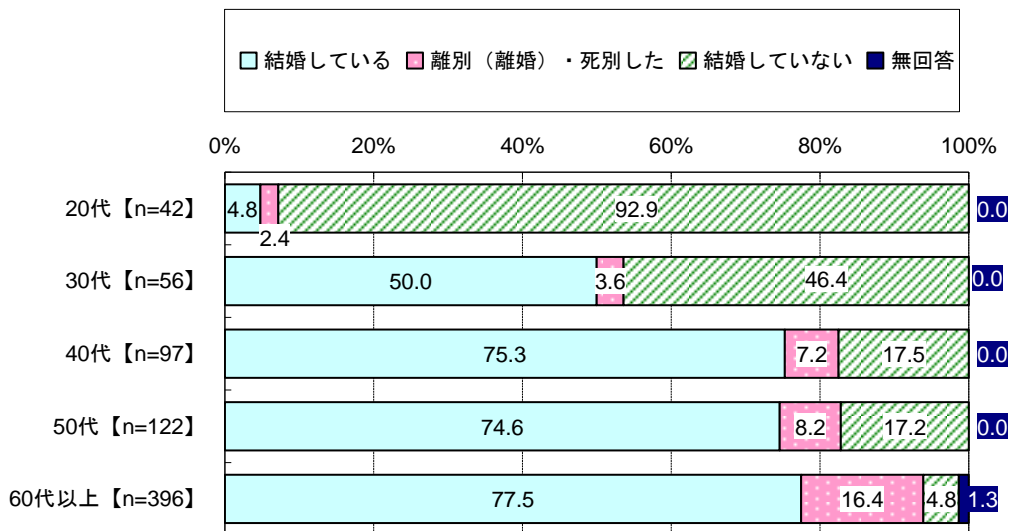
問7 結婚（事実婚を含む）されていますか。（○は1つ）



事実婚を含めた婚姻状況を尋ねたところ、全体の70.1%が「結婚している」と回答している。

男女別に「結婚している」割合をみると、男性では70.0%、女性では70.6%となっている。

●年代別クロス集計

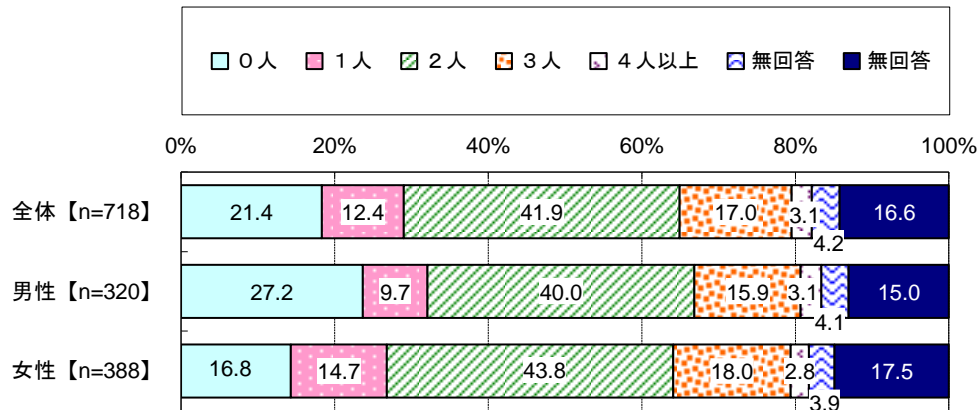


年代別にみると、「結婚している」割合は年齢が上がるごとに概ね増加し、「20代」では1割に満たないが、「30代」では5割と急増し、「40代」以上の年代では約7割～8割となっている。

(9) 子どもの人数

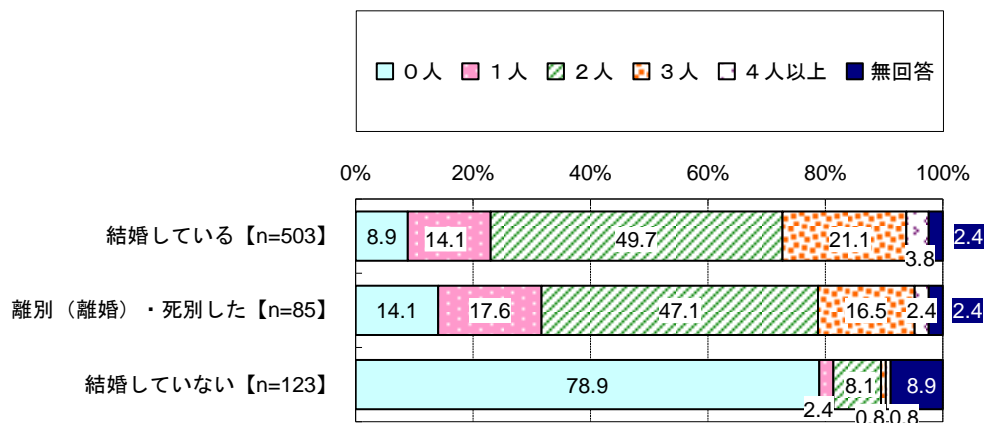
問8 お子さんの人数について、現実と理想をお答えください。(それぞれ1つに○)

① 現実の子どもの人数(実際にいる人数)



現実の子どもの人数については、全体では「2人」が41.9%、「3人」が17.0%、「1人」が12.4%、「4人以上」が3.1%となっている。一方、21.4%は「0人」と回答している。男女別にみると、男性、女性いずれも「2人」が最も多くなっている。

●婚姻状況別クロス集計

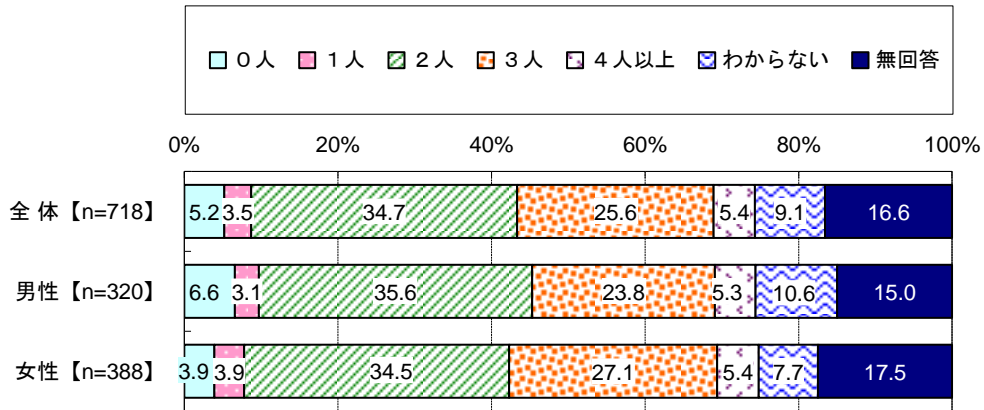


婚姻状況別に現実の子どもの人数をみると、「結婚している」人では「2人」が49.7%で最も多く、以下、「3人」が21.1%、「1人」が14.1%などとなっている。

「離別・死別した」人では「2人」が47.1%、「1人」が17.6%などとなっている。

「結婚していない」人では「2人」が8.1%、「1人」が2.4%などとなっている。

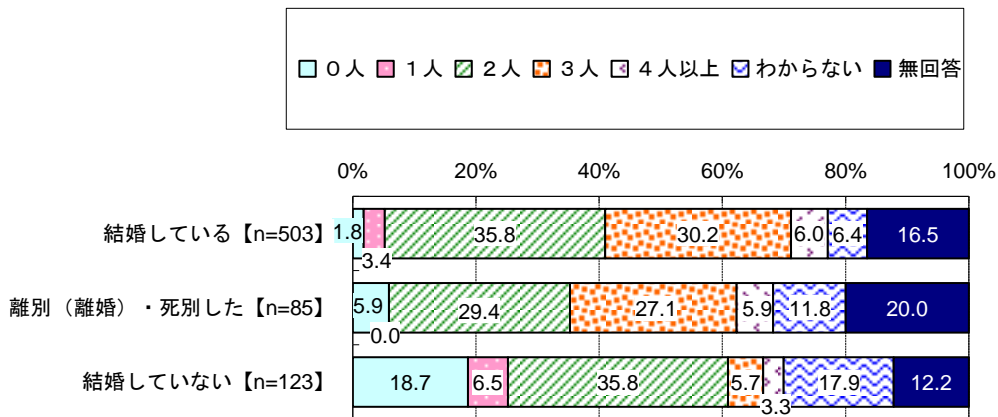
②理想の子ども的人数（もちたい人数）



理想の子ども的人数については、全体では「2人」が34.7%で最も多く、以下、「3人」が25.6%、「4人以上」が5.4%、「0人」が5.2%などとなっている。

男女別にみると、男女とも「2人」が最も多くなっている。

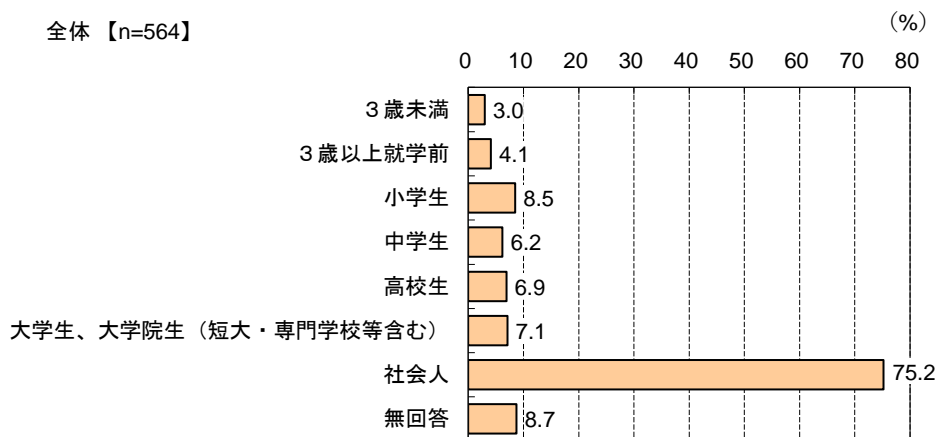
●婚姻状況別クロス集計



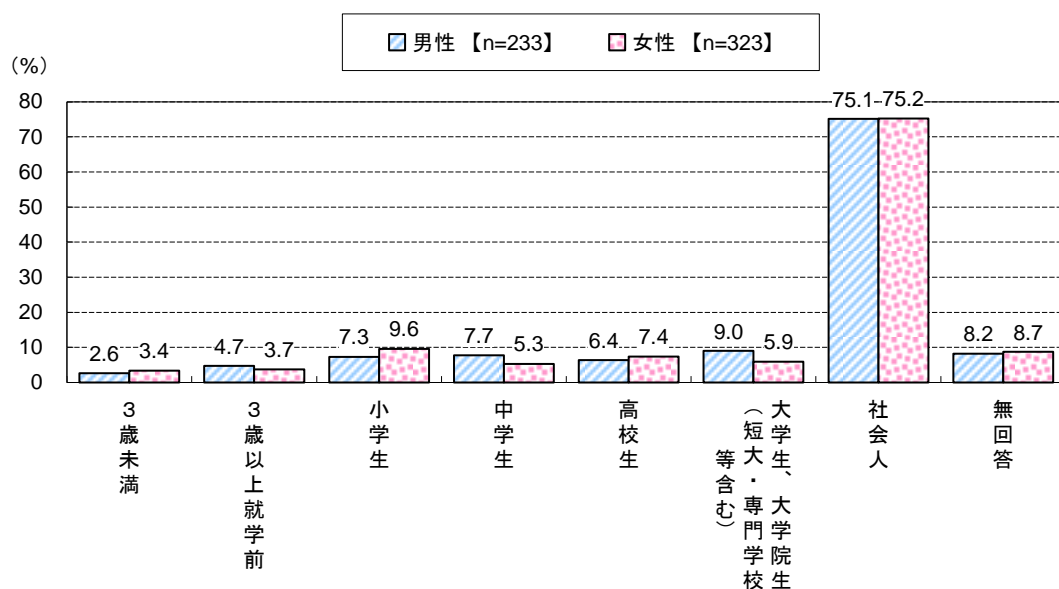
婚姻状況別に理想の子ども的人数をみると、どの婚姻状況においても「2人」が最も多くなっている。「結婚していない」人では「0人」、「わからない」もそれぞれ約2割と多くなっている。

(10) 《子どもがいる人》子どもの年代

問8-1 【お子さんがいる方：問8の①で「2～5」のいずれかに○をつけた方】
 お子さんの年代をお答えください。（○はいくつでも）



<男女別>



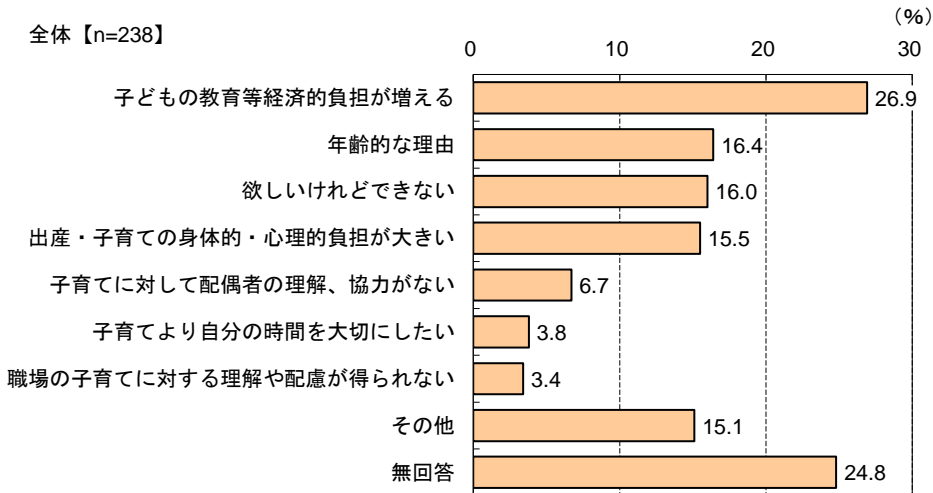
子どもが1人以上いると回答した人に子どもの年代を尋ねたところ、全体では「社会人」が75.2%で最も多いほか、「小学生」が8.5%、「大学生、大学院生（短大・専門学校等含む）」が7.1%、「高校生」が6.9%、「中学生」が6.2%、「3歳以上就学前」が4.1%、「3歳未満」が3.0%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「社会人」が最も多くなっている。

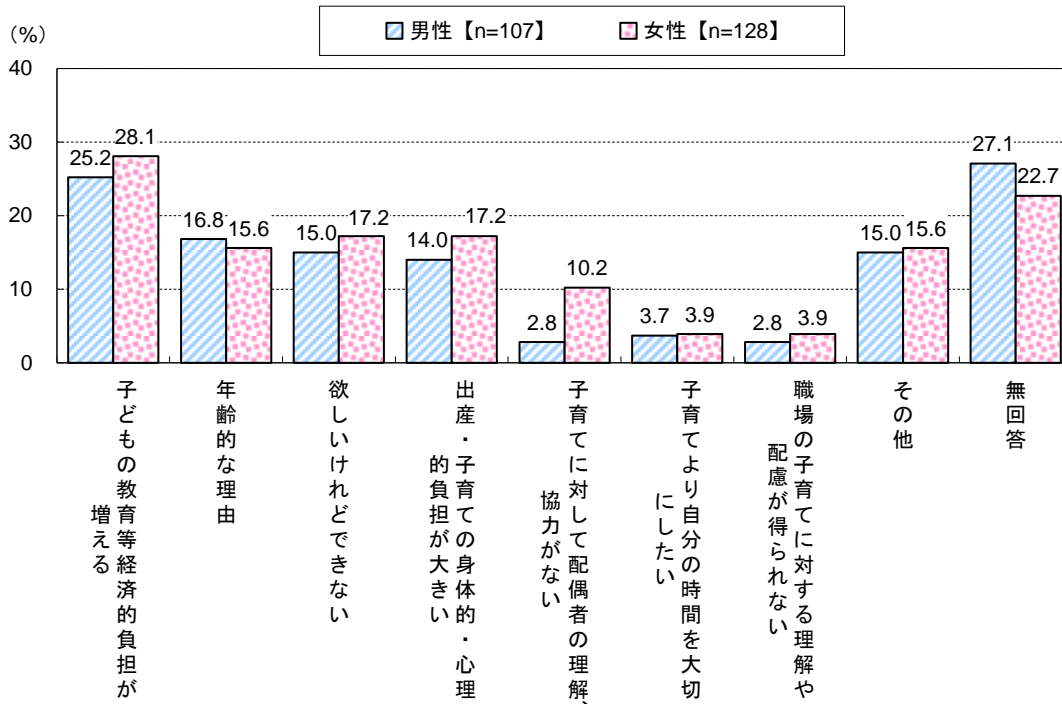
(11) 《子どもの現実の人数が理想の人数より少ない方》理想より少ない理由

問8-2 【問8で「①現実の人数」が「②理想の人数」より少ない方】

その理由は何ですか。(〇は3つまで)



<男女別>



子どもの現実の人数が理想の人数より少ないと回答した人に、理想より少ない理由を尋ねたところ、全体では「子どもの教育等経済的負担が増える」が26.9%で最も多いほか、「年齢的な理由」が16.4%、「欲しいけれどできない」が16.0%、「出産・子育ての身体的・心理的負担が大きい」が15.5%、「子育てに対して配偶者の理解、協力がでない」が6.7%、「子育てより自分の時間を大切にしたい」が3.8%、「職場の子育てに対する理解や配慮が得られない」が3.4%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「子どもの教育等経済的負担が増える」が最も多くなっている。

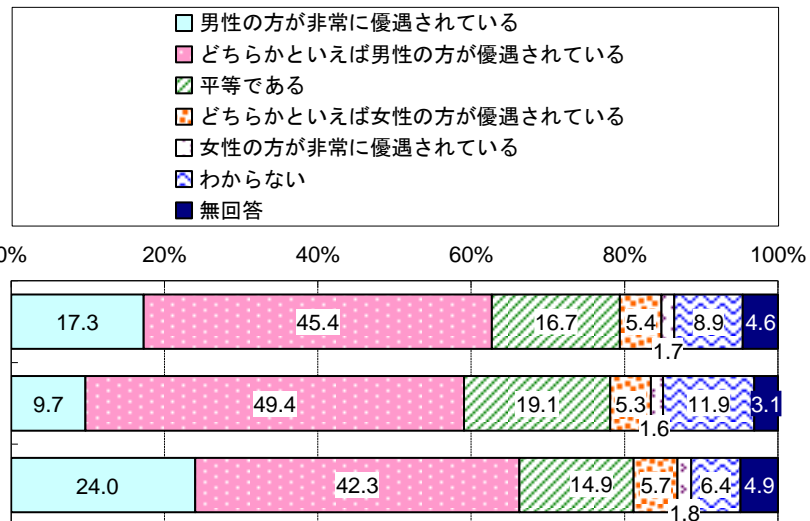
2 男女の平等に関する意識について

(1) 各分野における男女の地位に関する認識

問9 次にあげる8つの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

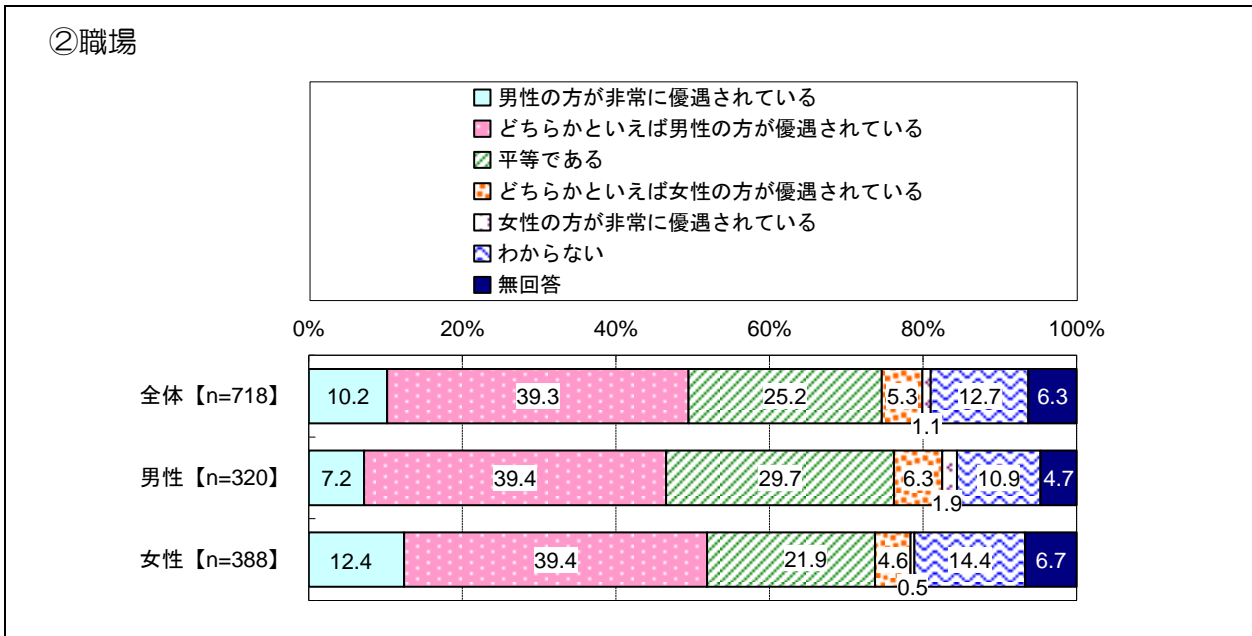
(①～⑦についてそれぞれ該当する「1～6」に○を1つ)

①家庭生活（家事・育児など）



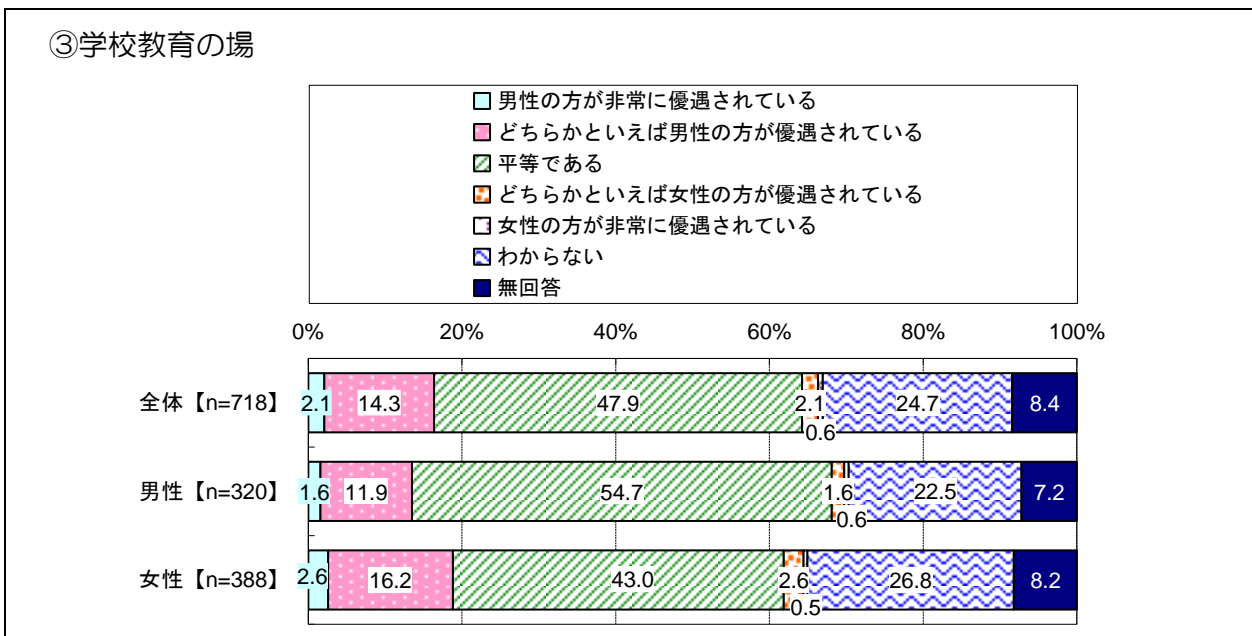
「①家庭生活（家事・育児など）」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、「平等である」は16.7%となっており、全体では『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が約6割を占めている。

男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では59.1%、女性では66.3%となっている。



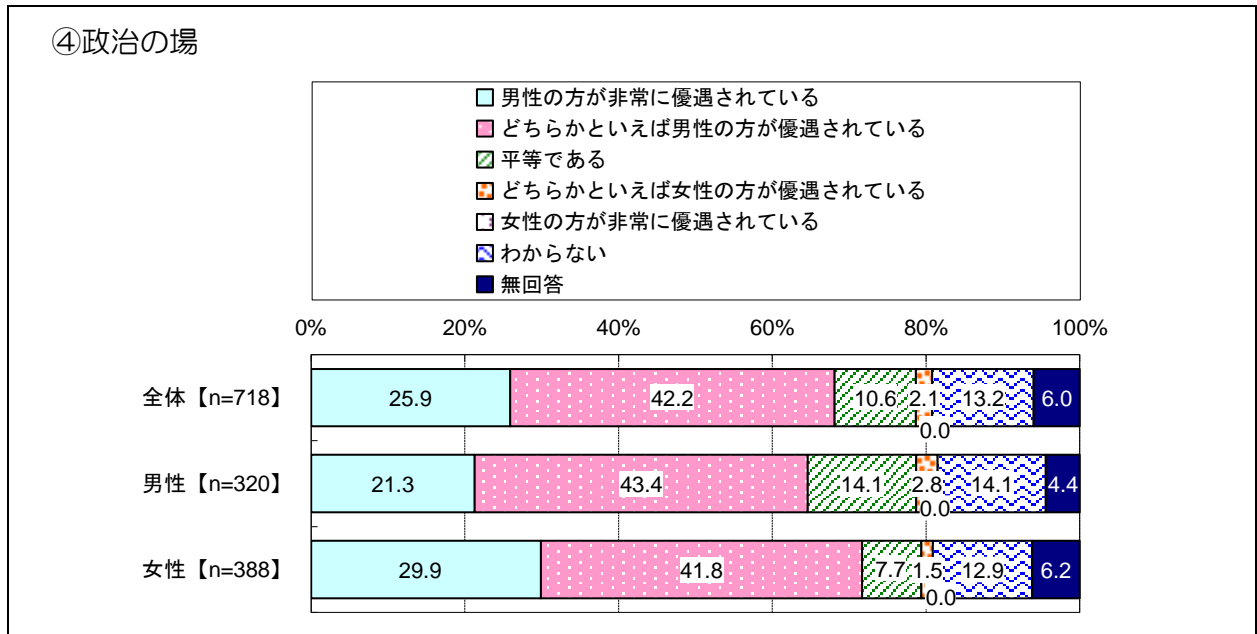
「②職場」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は25.2%となっており、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が約5割となっている。

男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では46.6%、女性では51.8%となっている。



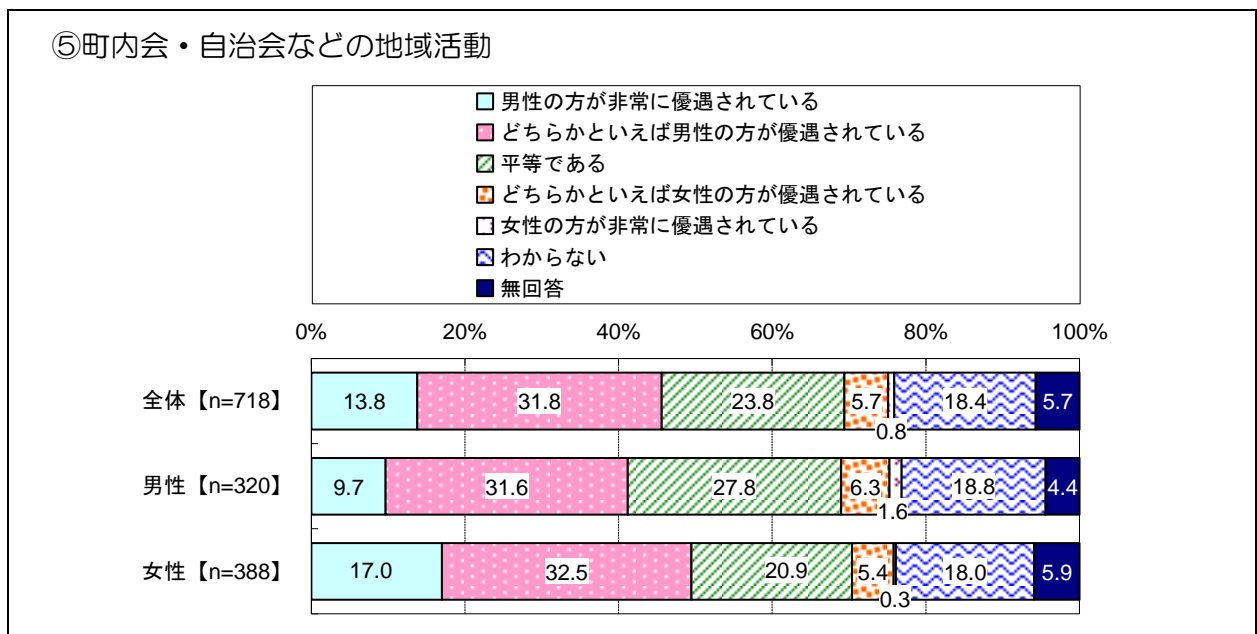
「③学校教育の場」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は47.9%と約半数を占めているほか、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）の回答割合は2割程度となっている。

男女別に「平等である」の回答割合をみると、男性では54.7%、女性では43.0%となっている。



「④政治の場」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は10.6%となっており、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が約7割を占めている。

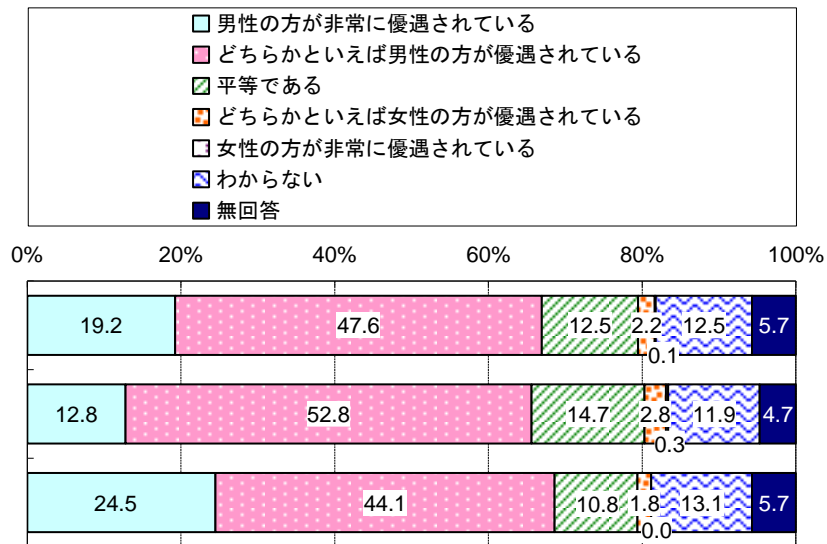
男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では64.7%、女性では71.7%となっている。



「⑤町内会・自治会などの地域活動」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は23.8%となっており、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が4割以上を占めている。

男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では41.3%、女性では49.5%となっている。

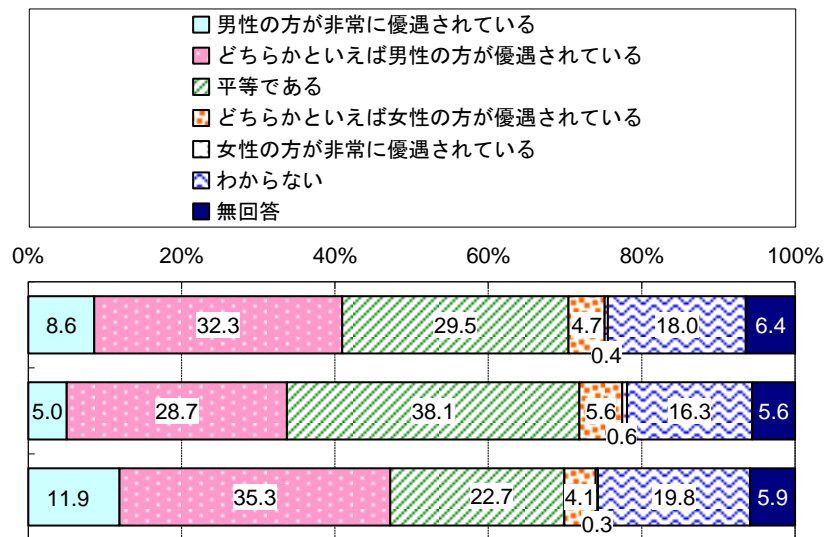
⑥社会通念・慣習・しきたり



「⑥社会通念・慣習・しきたり」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は12.5%となっており、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が6割以上を占めている。

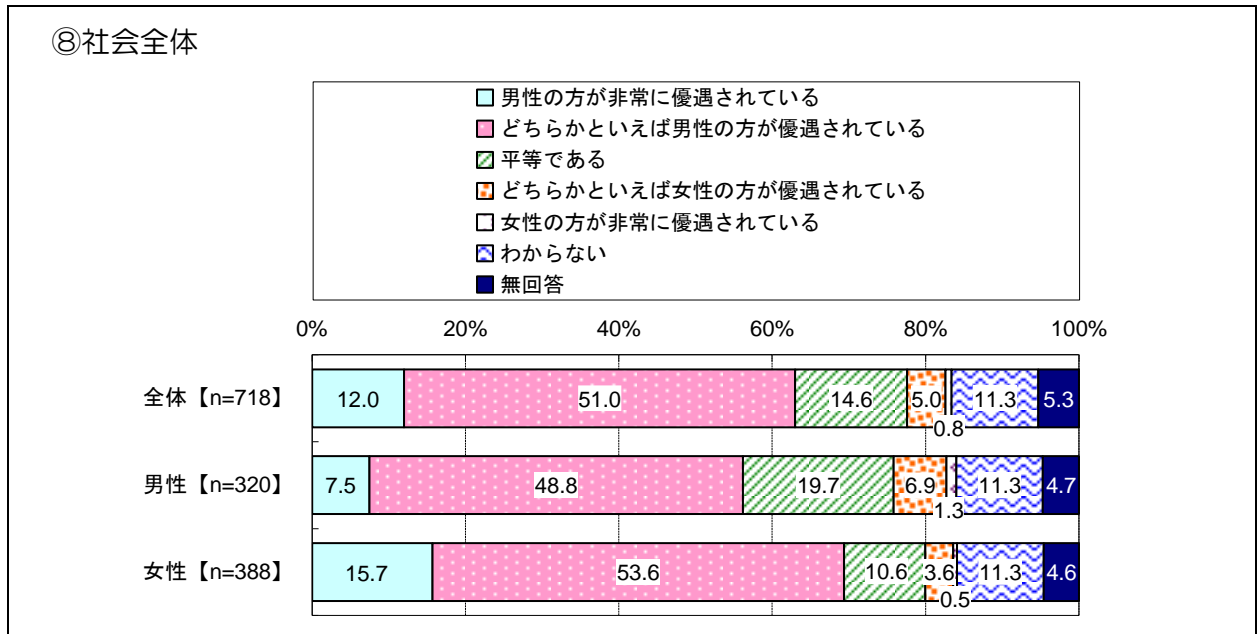
男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では65.6%、女性では68.6%となっている。

⑦法律や制度



「⑦法律や制度」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は29.5%となっており、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が約4割を占めている。

男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では33.7%、女性では47.2%となっている。

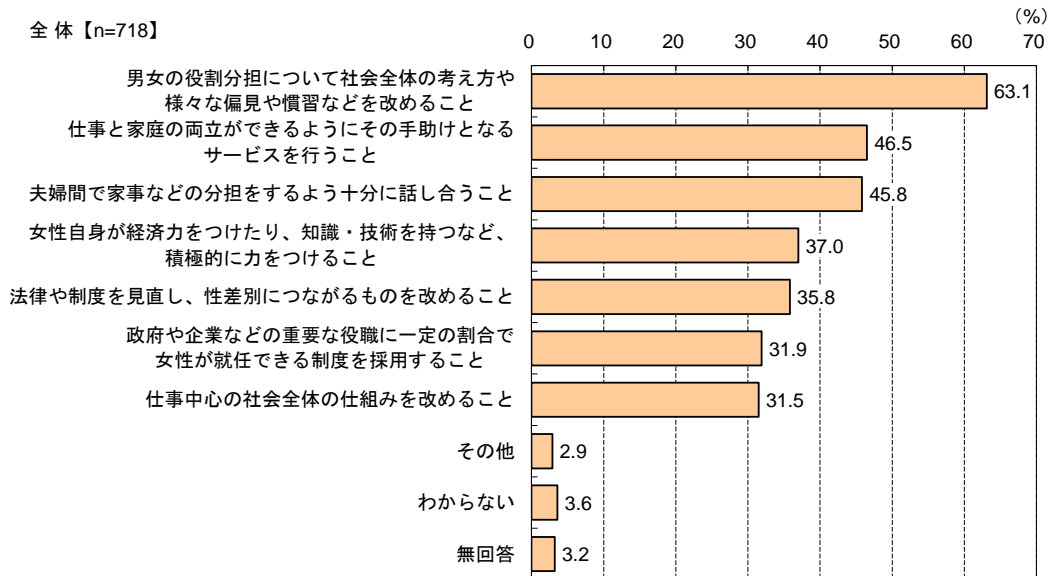


「⑧社会全体」において、男女の地位は平等になっていると思うか尋ねたところ、全体では「平等である」は14.6%となっており、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が6割以上を占めている。

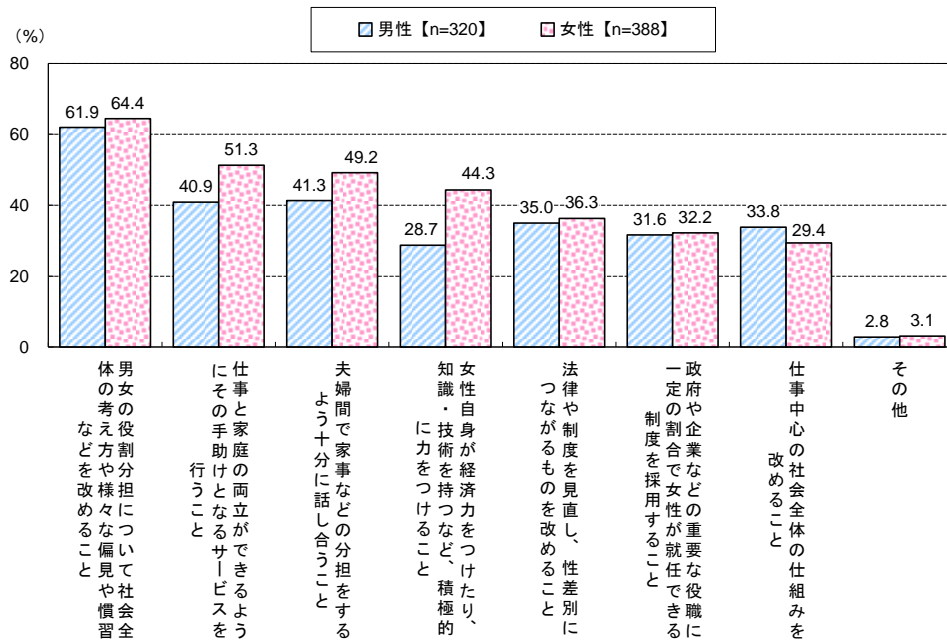
男女別に『男性優遇』の回答割合をみると、男性では56.3%、女性では69.3%となっている。

(2) 男女平等になるために重要なこと

問10 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何ですか。(〇はいくつでも)



<男女別>



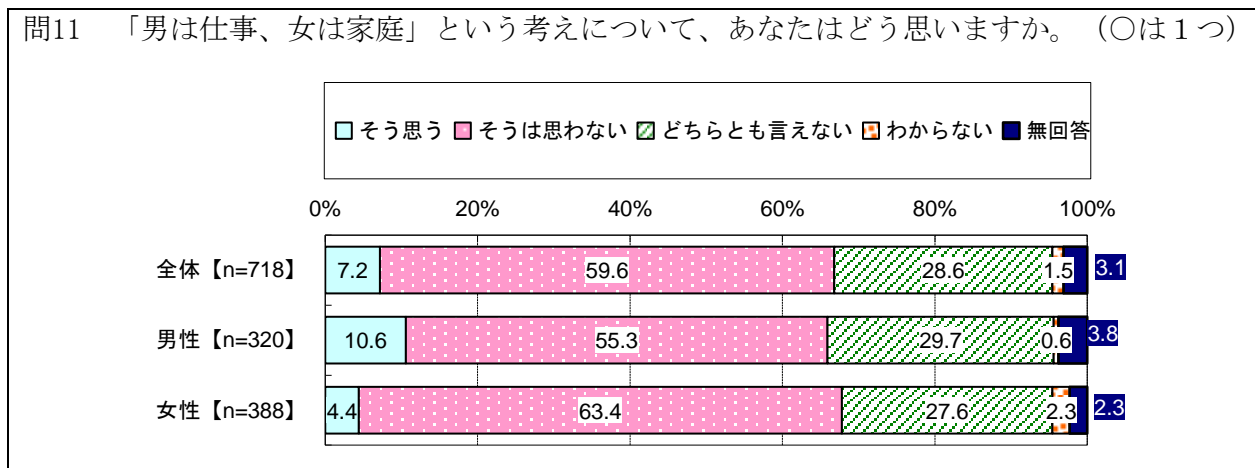
男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要だと思うことを尋ねたところ、「男女の役割分担について社会全体の考え方や様々な偏見や慣習などを改めること」が63.1%で最も多く、以下、「仕事と家庭の両立ができるようにその手助けとなるサービスを行うこと」が46.5%、「夫婦間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと」が45.8%などで続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「男女の役割分担について社会全体の考え方や様々な偏見や慣習などを改めること」が最も多く挙げられている。また、女性では「仕事と家庭の両立ができるようにその手助けとなるサービスを行うこと」が2番目に多く挙げられており、その回答割合は男性の数値を10.4ポイント上回っている。

3 男女の生き方や家庭生活に関する意識について

(1) 「男性は仕事、女性は家庭」の考え方についての賛否

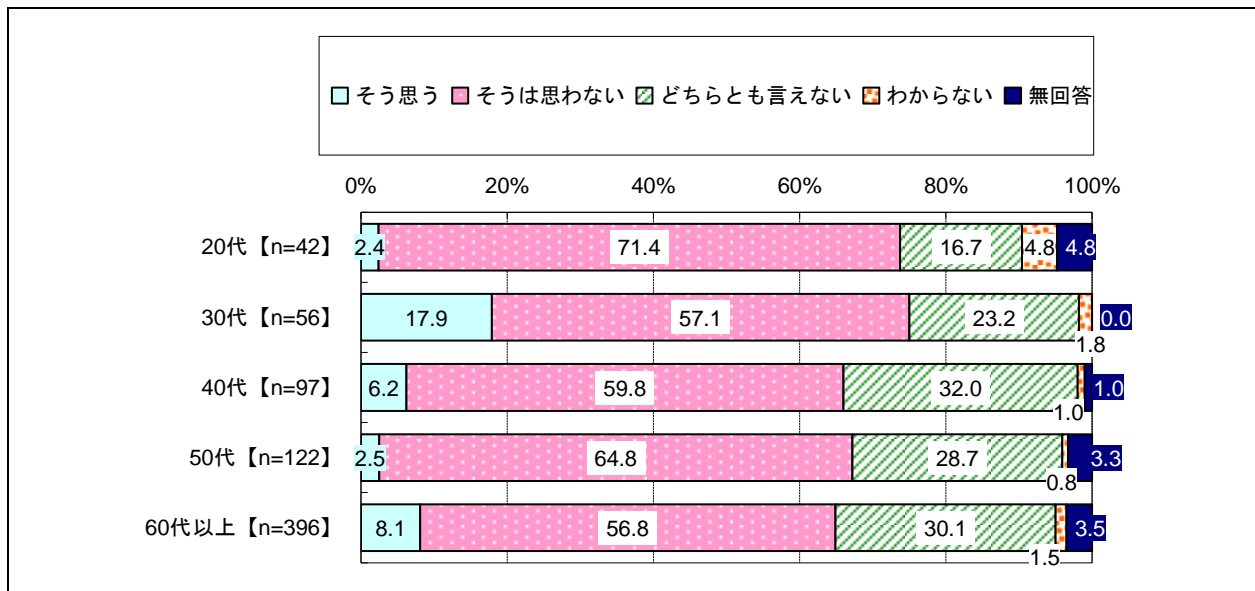
問11 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)



「男性は仕事、女性は家庭」という考えについては、全体では「そうは思わない」が59.6%で過半数を占めているほか、「どちらとも言えない」が28.6%、「そう思う」が7.2%となっている。一方、1.5%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも「そうは思わない」が過半数を占めている。

●年代別クロス集計

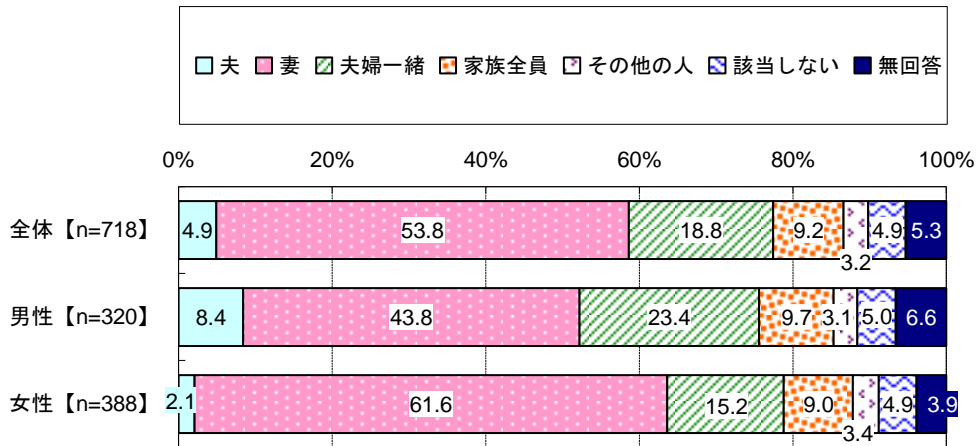


年代別にみると、「そうは思わない」の回答割合は「20代」で最も高く、7割を超えている。すべての年代において「そうは思わない」が過半数を占めている中で、「30代」では「そう思う」の回答割合が約2割と最も高くなっている。

(2) 家庭の中で家事を主に行う人

問12 あなたの家庭では、家事等について、主に誰が行っていますか。また、家計費の管理等について最終的に決めているのは誰ですか。(①～⑧についてそれぞれ1つに○)

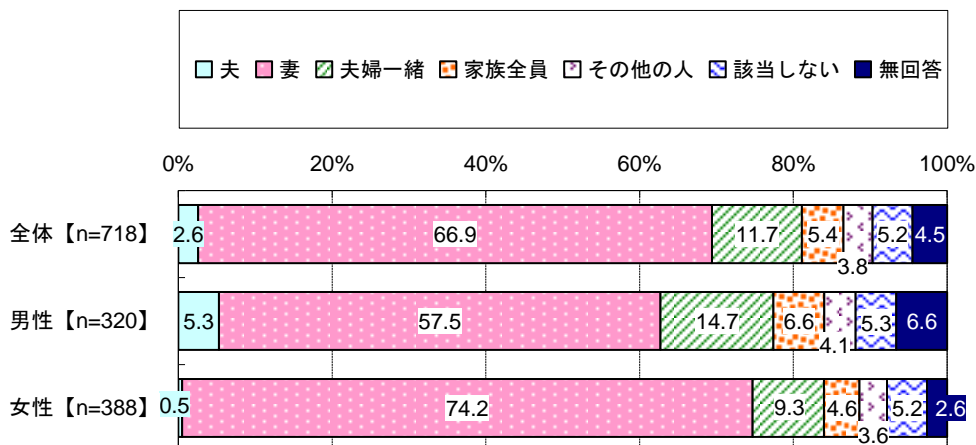
①掃除



「①掃除」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が53.8%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が43.8%、女性では「妻」が61.6%でそれぞれ最も多くなっている。

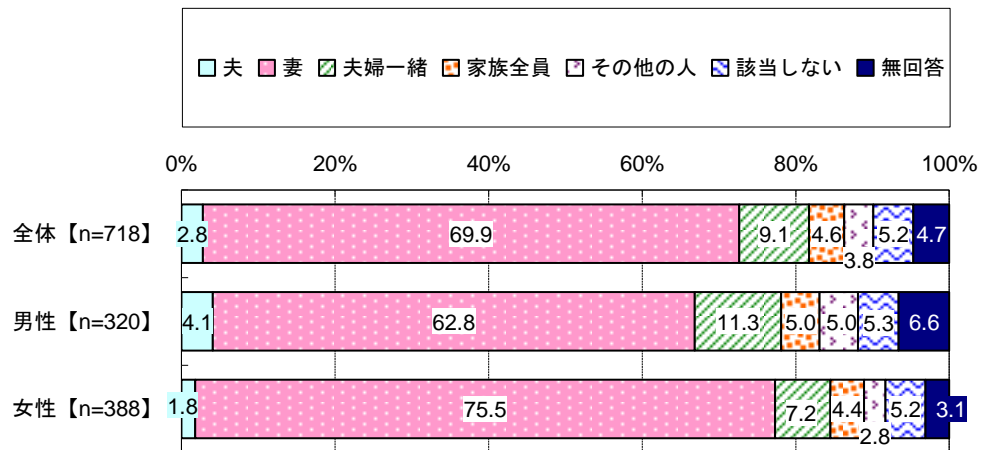
②洗濯



「②洗濯」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が66.9%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が57.5%、女性では「妻」が74.2%でそれぞれ最も多くなっている。

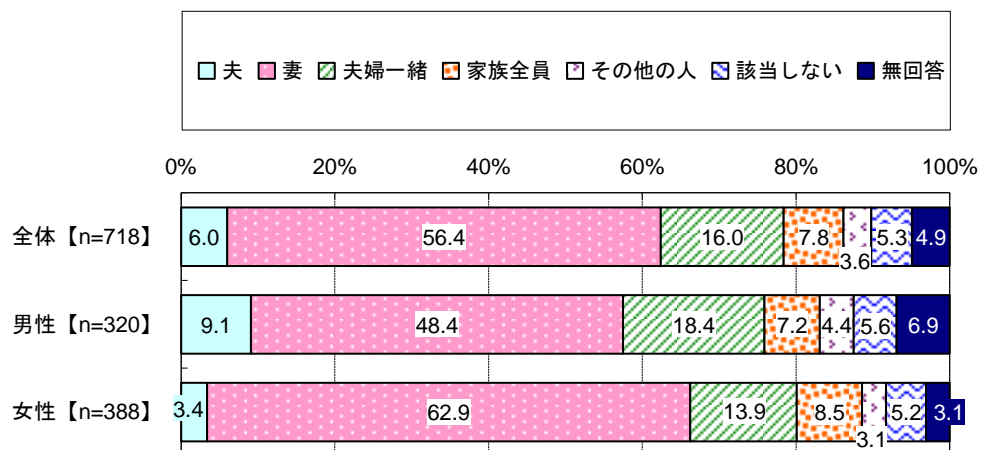
③ 食事のしたく



「③食事のしたく」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が69.9%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が62.8%、女性では「妻」が75.5%でそれぞれ最も多くなっている。

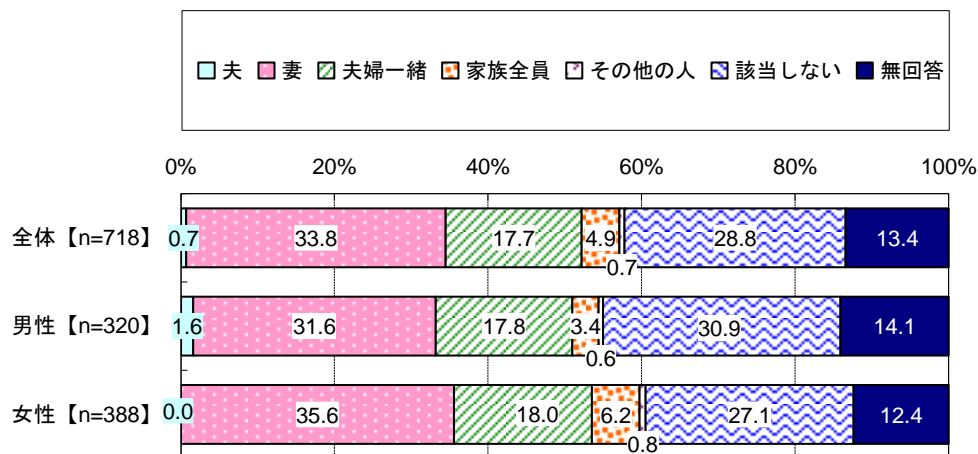
④ 食事の後片づけ、食器洗い



「④食事の後片づけ、食器洗い」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が56.4%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が48.4%、女性では「妻」が62.9%でそれぞれ最も多くなっている。

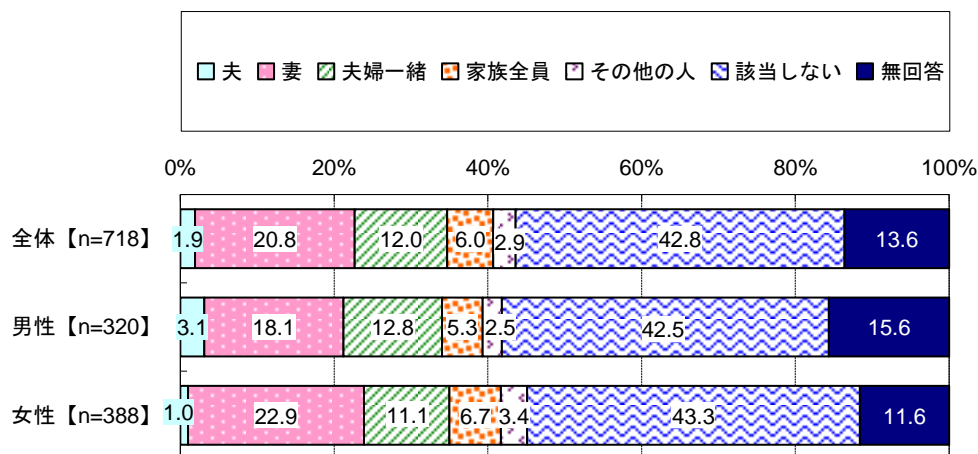
⑤育児



「⑤育児」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が33.8%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が31.6%、女性では「妻」が35.6%でそれぞれ最も多くなっている。

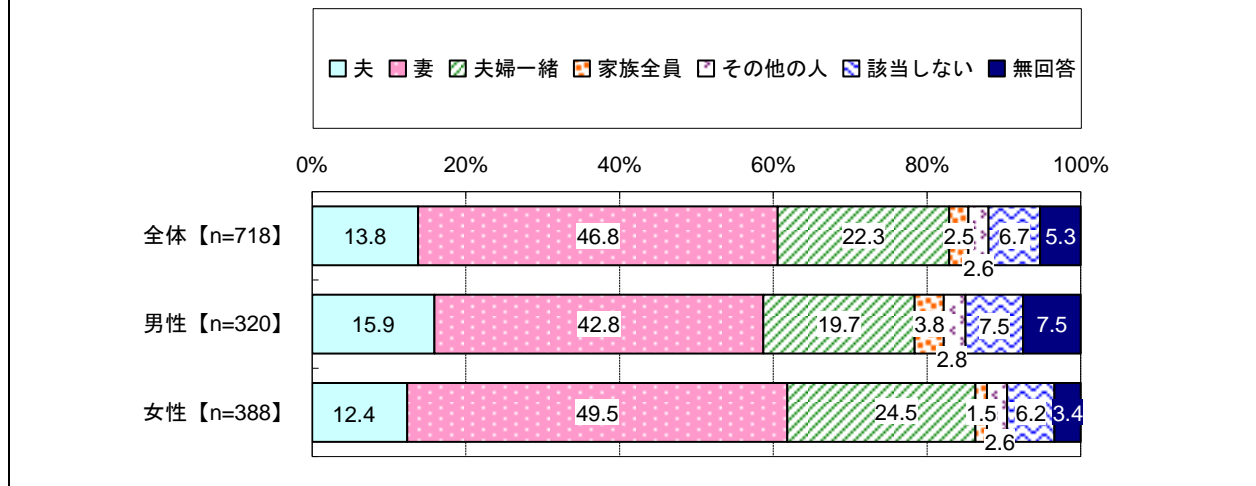
⑥高齢者の世話、介護



「⑥高齢者の世話、介護」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が20.8%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が18.1%、女性では「妻」が22.9%でそれぞれ最も多くなっている。

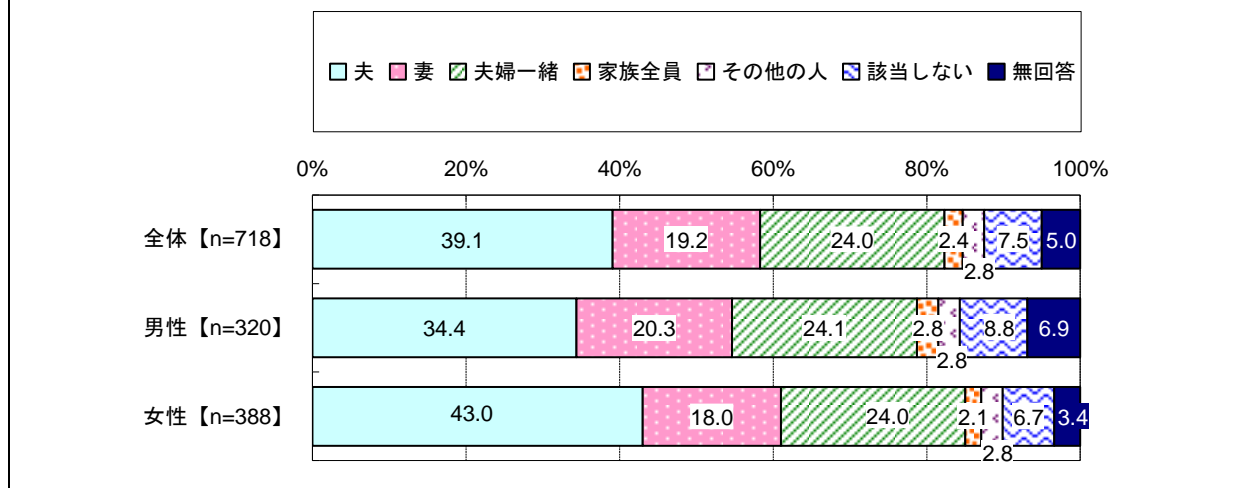
⑦家計費の管理



「⑦家計費の管理」について、家庭の中で主に行う人は、全体では「妻」が46.8%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「妻」が42.8%、女性では「妻」が49.5%でそれぞれ最も多くなっている。

⑧全体的な実権（を握っている）



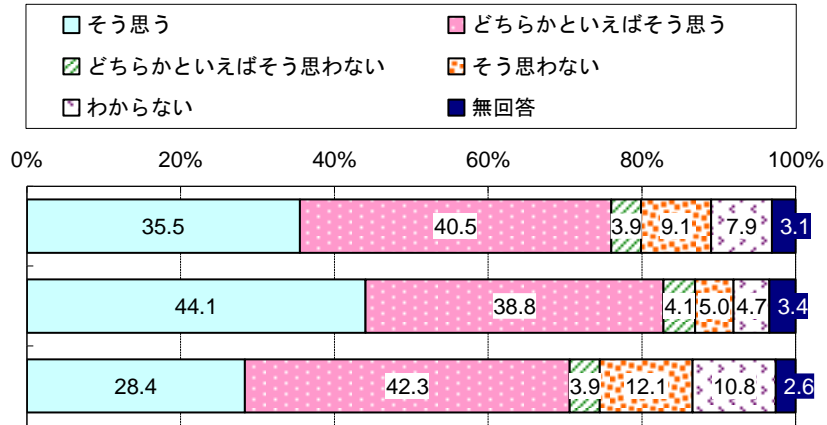
家庭の中で、「⑧全体的な実権（を握っている）」人については、全体では「夫」が39.1%で最も多くなっている。

男女別にみると、男性では「夫」が34.4%、女性では「夫」が43.0%でそれぞれ最も多くなっている。

(3) 結婚や子どもを持つことに関する意識

問13 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(①～⑤それぞれ1つに○)

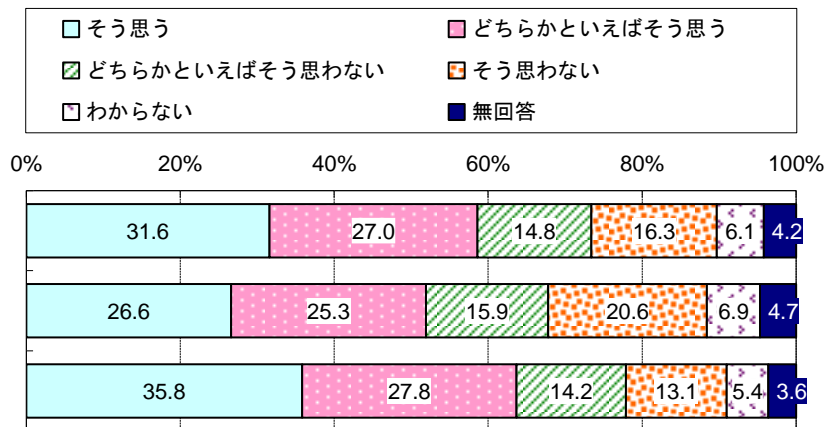
①人は結婚する方がよい



「①人は結婚する方がよい」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では76.0%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では82.9%、女性では70.7%となっている。

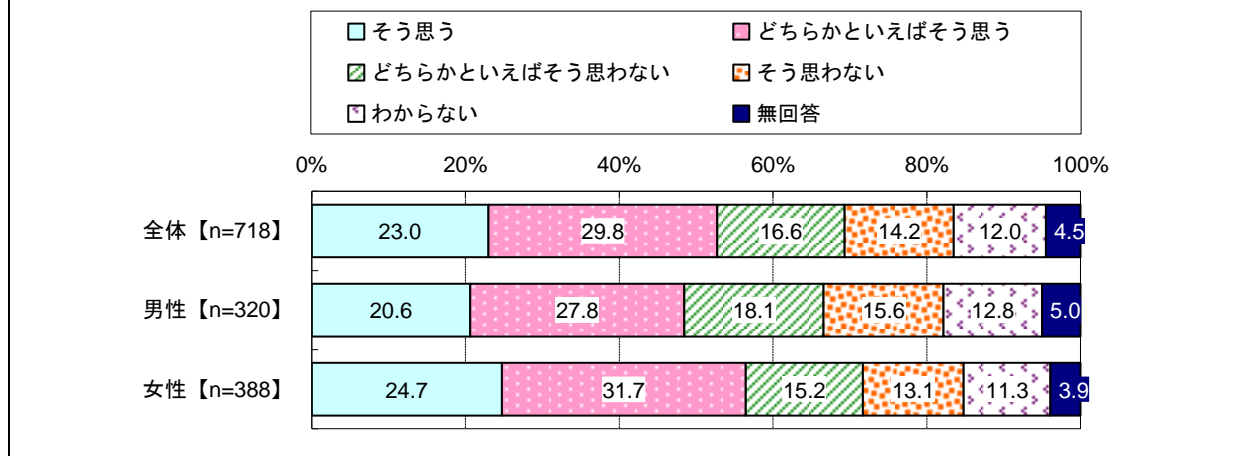
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい



「②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では58.6%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では51.9%、女性では63.6%となっている。

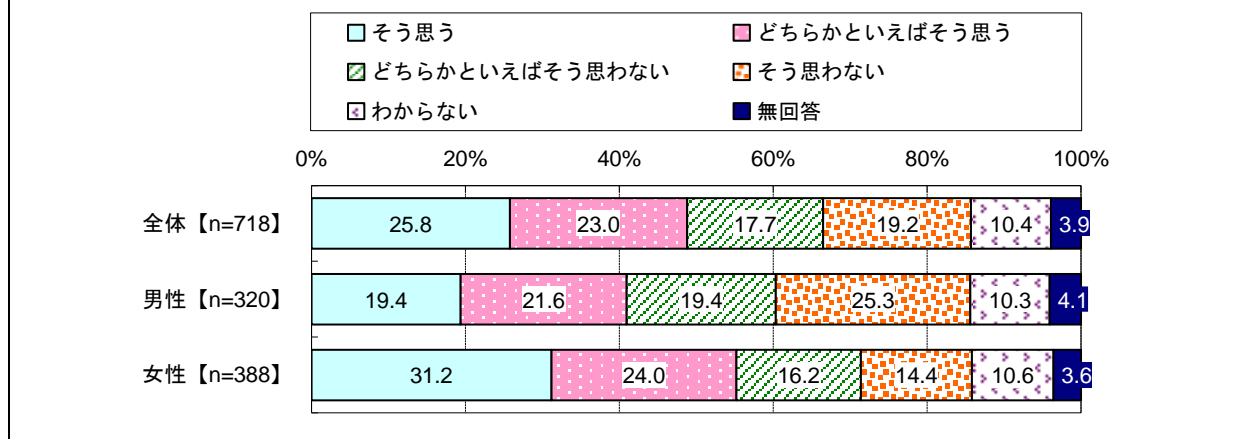
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



「③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では52.8%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では48.4%、女性では56.4%となっている。

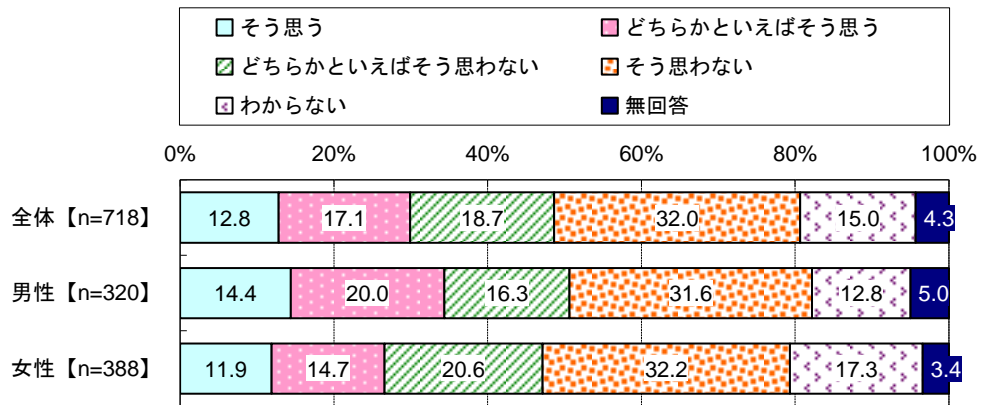
④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない



「④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では48.8%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では41.0%、女性では55.2%となっている。

⑤結婚しないで子どもを持ってもよい



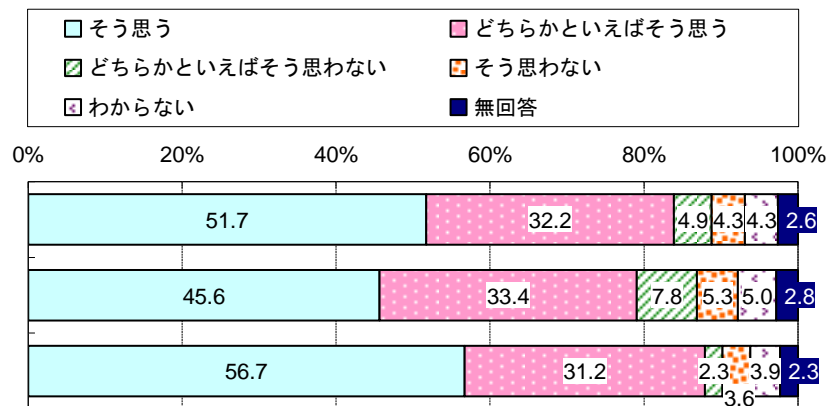
「⑤結婚しないで子どもを持ってもよい」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では29.9%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では34.4%、女性では26.6%となっている。

(4) 男女の生き方や家庭生活などに関する意識

問14 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いますか。
 (①～⑧それぞれ1つに○)

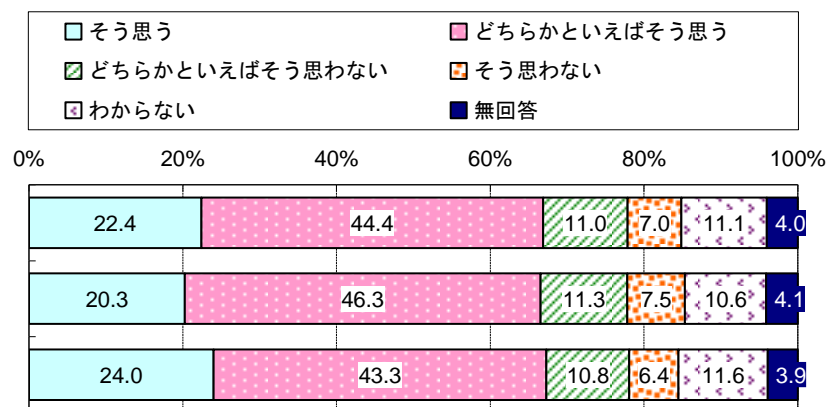
①「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう



「①「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では83.9%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では79.0%、女性では87.9%となっている。

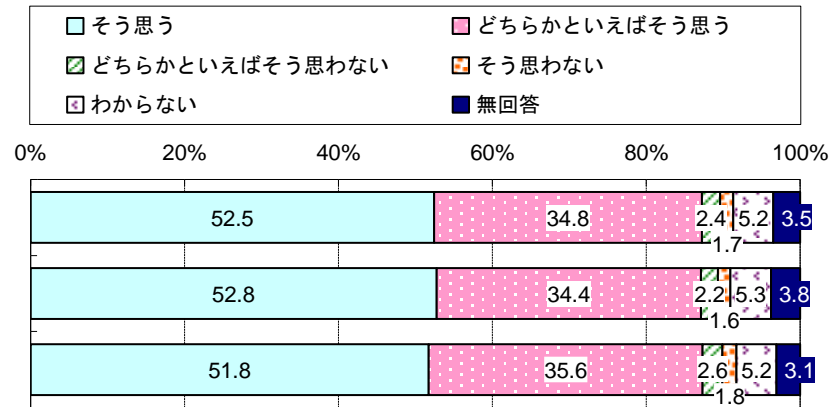
②社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない



「②社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では66.8%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では66.6%、女性では67.3%となっている。

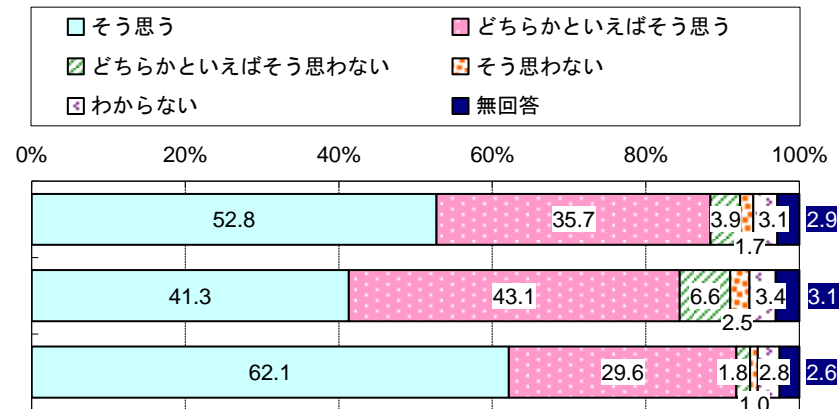
③仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである



「③仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では87.3%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では87.2%、女性では87.4%となっている。

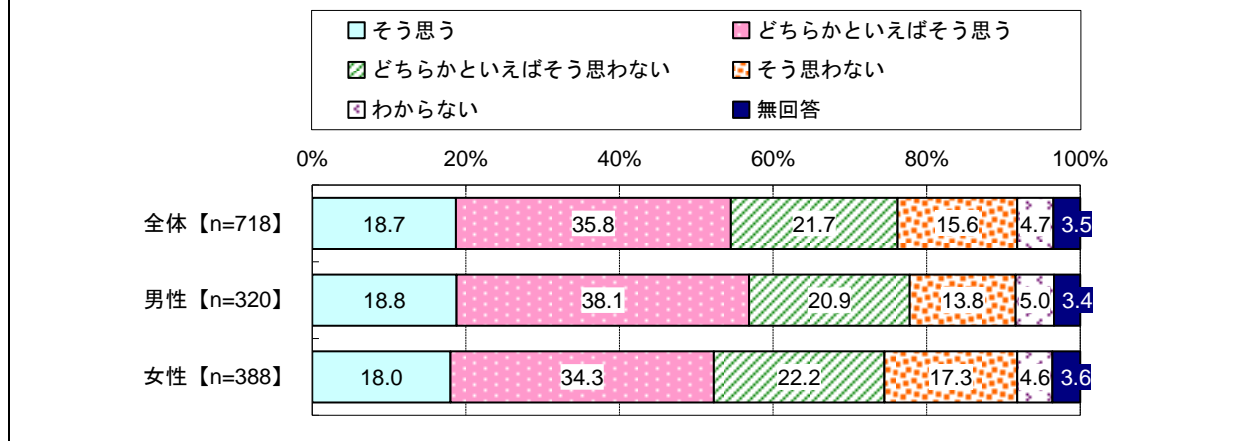
④男性も家事・育児に積極的に参加すべきである



「④男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では88.5%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では84.4%、女性では91.7%となっている。

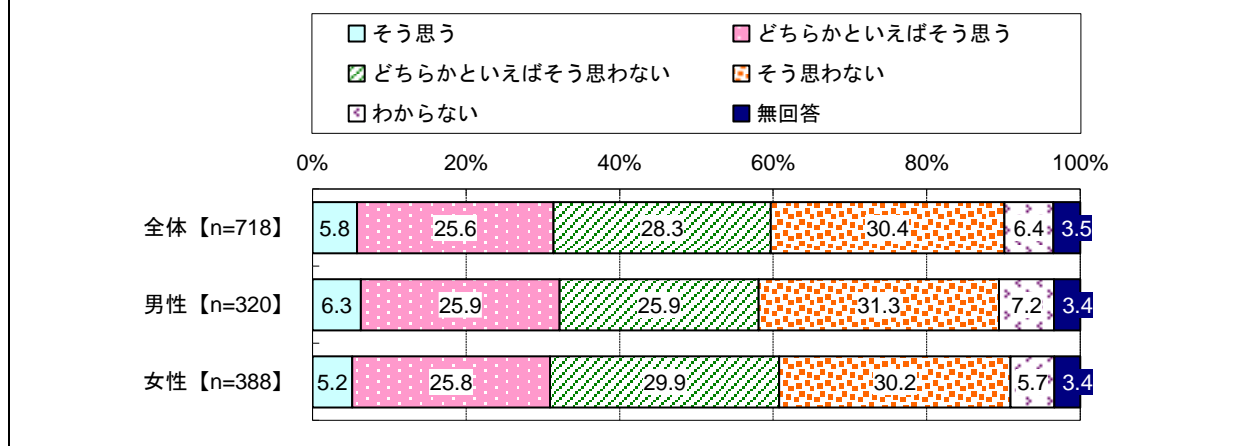
⑤男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである



「⑤男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では54.5%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では56.9%、女性では52.3%となっている。

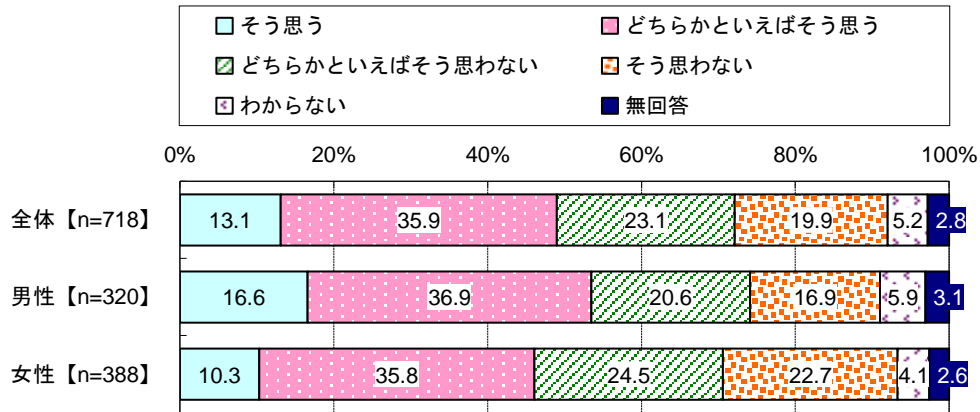
⑥女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



「⑥女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では31.4%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では32.2%、女性では31.0%となっている。

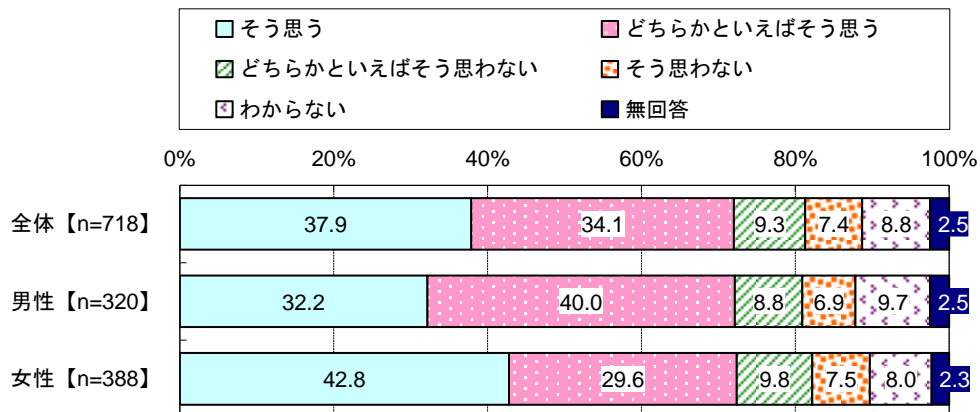
⑦女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである



「⑦女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では49.0%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では53.5%、女性では46.1%となっている。

⑧女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい



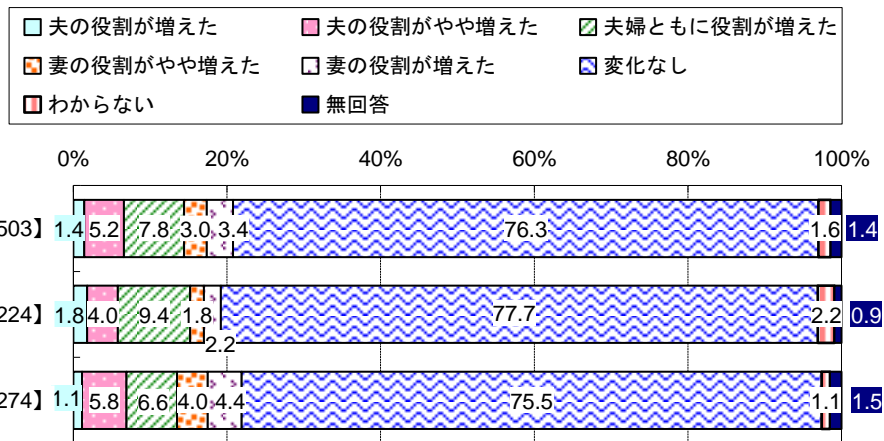
「⑧女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい」という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では72.0%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では72.2%、女性では72.4%となっている。

(5) 《配偶者・パートナーがいる方》コロナ禍における夫婦間の役割分担の変化

問15 【問7で「1. 結婚している」（事実婚を含む）に○をつけた方】

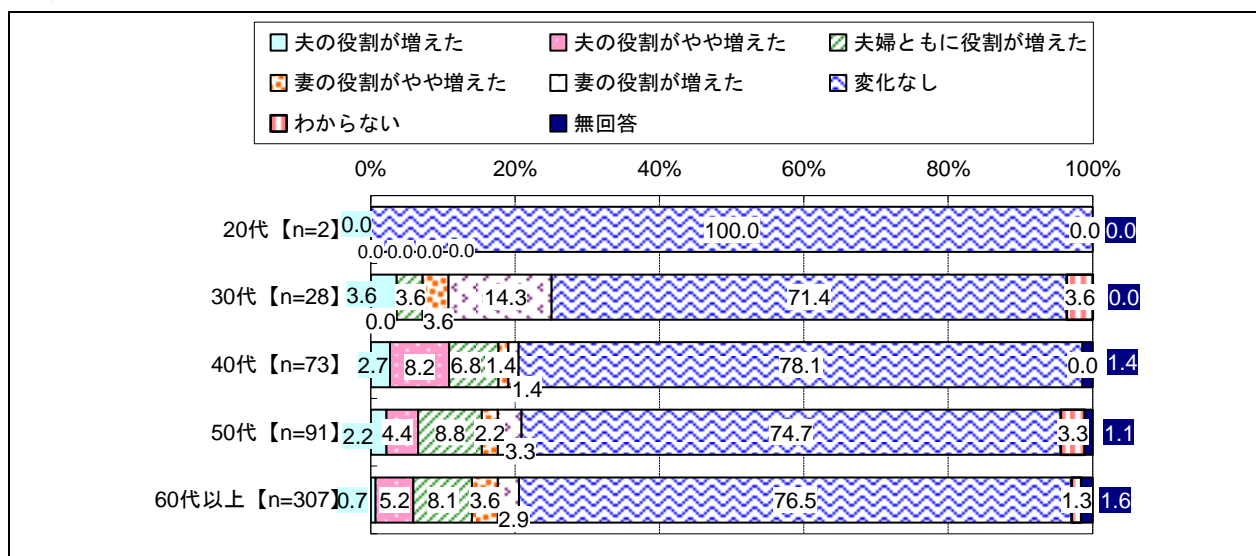
新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、夫婦間の家事・育児・介護の役割分担に変化はありましたか。（最も近いもの1つに○）



配偶者・パートナーがいる（事実婚を含め結婚している）と回答した人に、新型コロナウイルス感染症拡大後における夫婦間の家事・育児・介護の役割分担の変化について尋ねたところ、全体では「変化なし」が76.3%となっている。変化があった人の『夫の役割が増えた割合』（「夫の役割が増えた」と「夫の役割がやや増えた」の合計）は6.6%、『妻の役割が増えた割合』（「妻の役割が増えた」と「妻の役割がやや増えた」の合計）は6.4%となっている。

男女別にみると、女性の『妻の役割が増えた割合』は8.4%となっており、男性（4.0%）の約2倍となっている。

●年代別クロス集計



年代別にみると、「変化なし」の回答割合はどの年代でも7割を超えている。すべての年代において「変化なし」が多くを占めている中で、特に「30代」では『妻の役割が増えた割合』が17.9%、「40代」では『夫の役割が増えた割合』が10.9%と、それぞれ最も高くなっている。

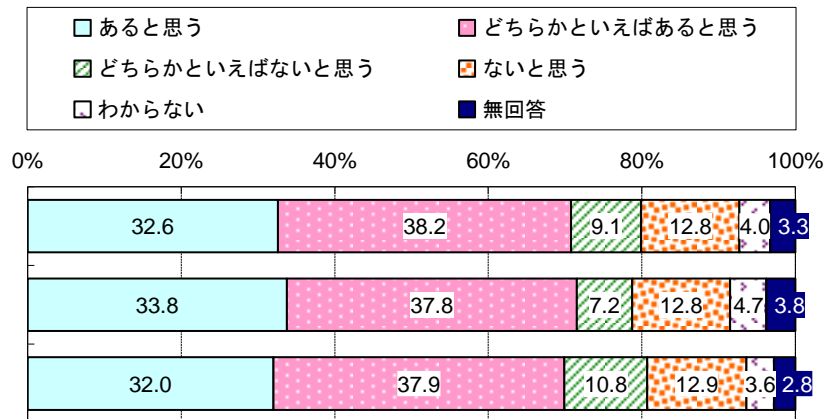
4 就業について

(1) 仕事を選ぶ際に重視すること

問16 就業に関する次のことについて、あなたはどのように思いますか。

(①～②それぞれ1つに○)

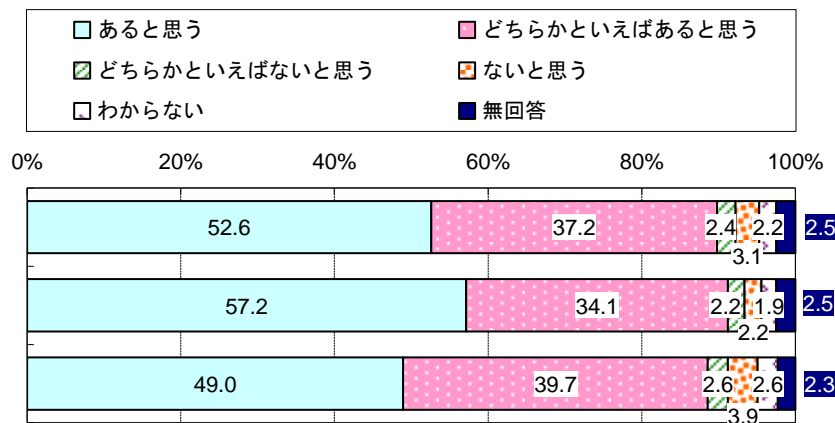
①仕事をこなす能力について男女差はある



『①仕事をこなす能力について男女差はある』という考えについて、大別して『あると思う割合』（「あると思う」と「どちらかといえばあると思う」の合計）は、全体では70.8%となっている。一方、『ないと思う割合』（「どちらかといえばないと思う」と「ないと思う」の合計）は、21.9%となっている。

男女別に『あると思う割合』をみると、男性では71.6%、女性では69.9%となっている。

②男性向き、女性向きの仕事内容がある

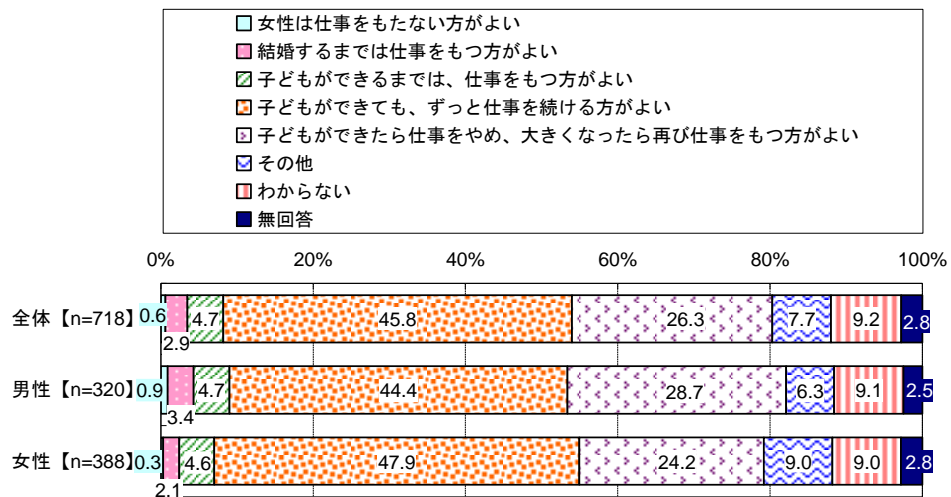


『②男性向き、女性向きの仕事内容がある』という考えについて、大別して『あると思う割合』（「あると思う」と「どちらかといえばあると思う」の合計）は、全体では89.8%となっている。一方、『ないと思う割合』（「どちらかといえばないと思う」と「ないと思う」の合計）は、5.5%となっている。

男女別に『あると思う割合』をみると、男性では91.3%、女性では88.7%となっている。

(2) 女性が職業を持つことについての考え

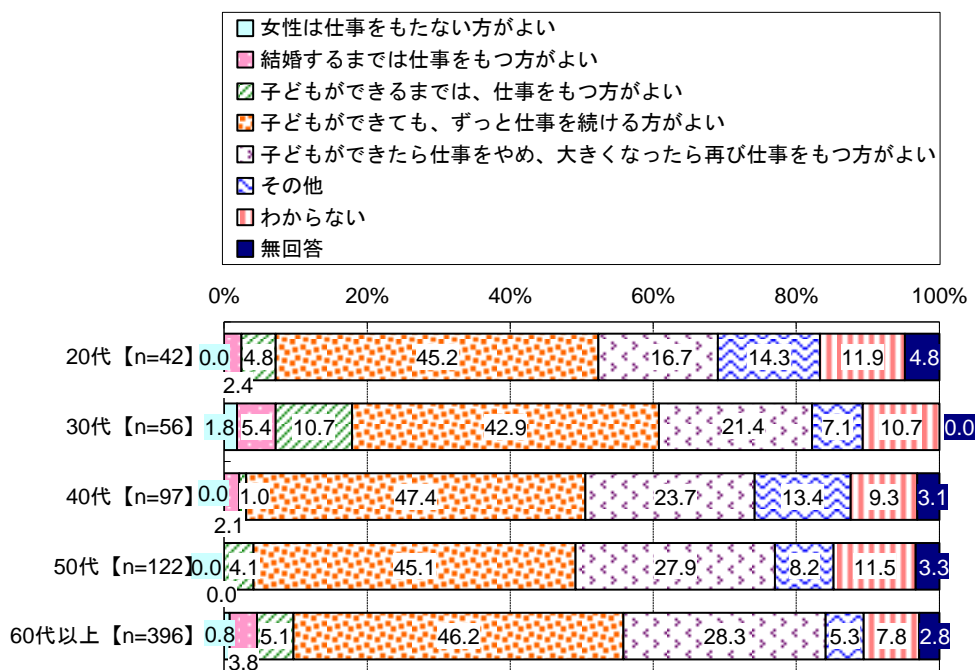
問17 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)



女性が職業をもつことについての考えを尋ねたところ、全体では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が45.8%で最も多く、以下、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が26.3%、「子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい」が4.7%などとなっている。一方、9.2%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多くなっている。

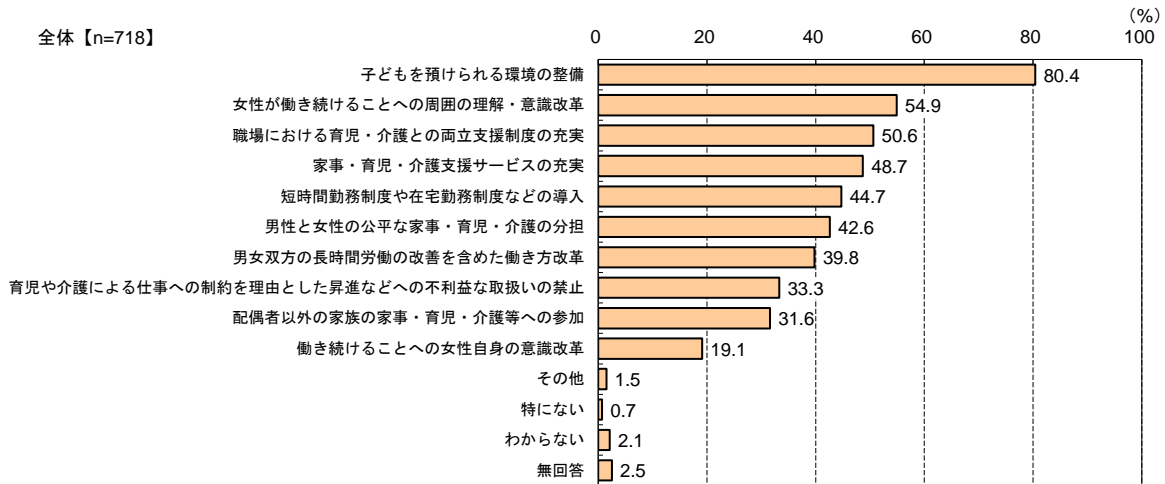
●年代別クロス集計



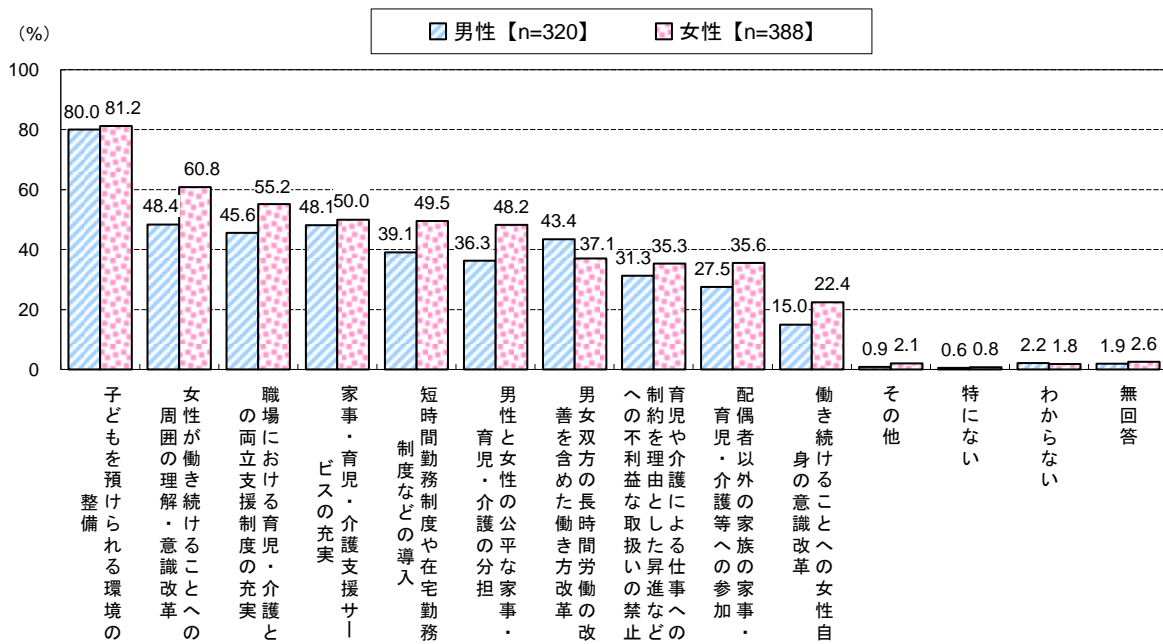
年代別にみると、すべての年代において「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多くを占めている。また、年代が上がるごとに「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」の回答割合が高くなっている。

(3) 女性が出産後も離職せずに働き続けるために必要なこと

問18 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)



<男女別>

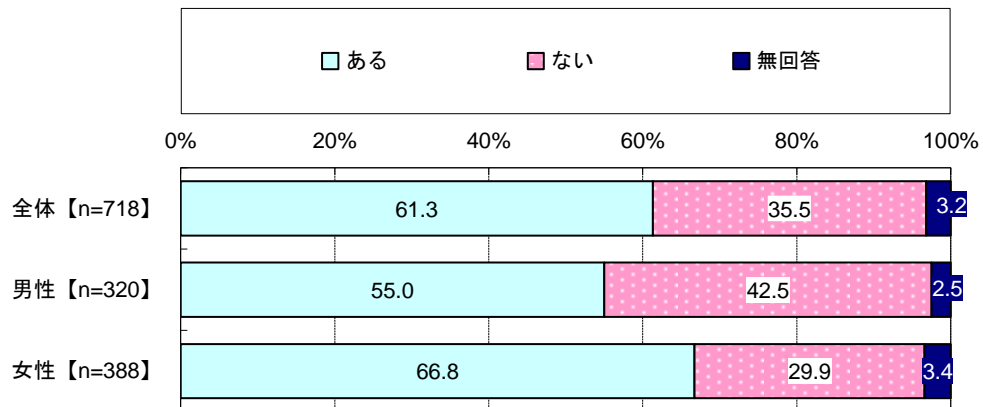


女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことを尋ねたところ、「子どもを預けられる環境の整備」が80.4%で最も多く、以下、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(54.9%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(50.6%)、「家事・育児・介護支援サービスの充実」(48.7%)、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(44.7%)などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「子どもを預けられる環境の整備」が1位、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が2位と回答傾向が共通している中で、多くの項目において女性の回答割合が男性よりも高くなっている。

(4) 仕事を辞めた経験の有無

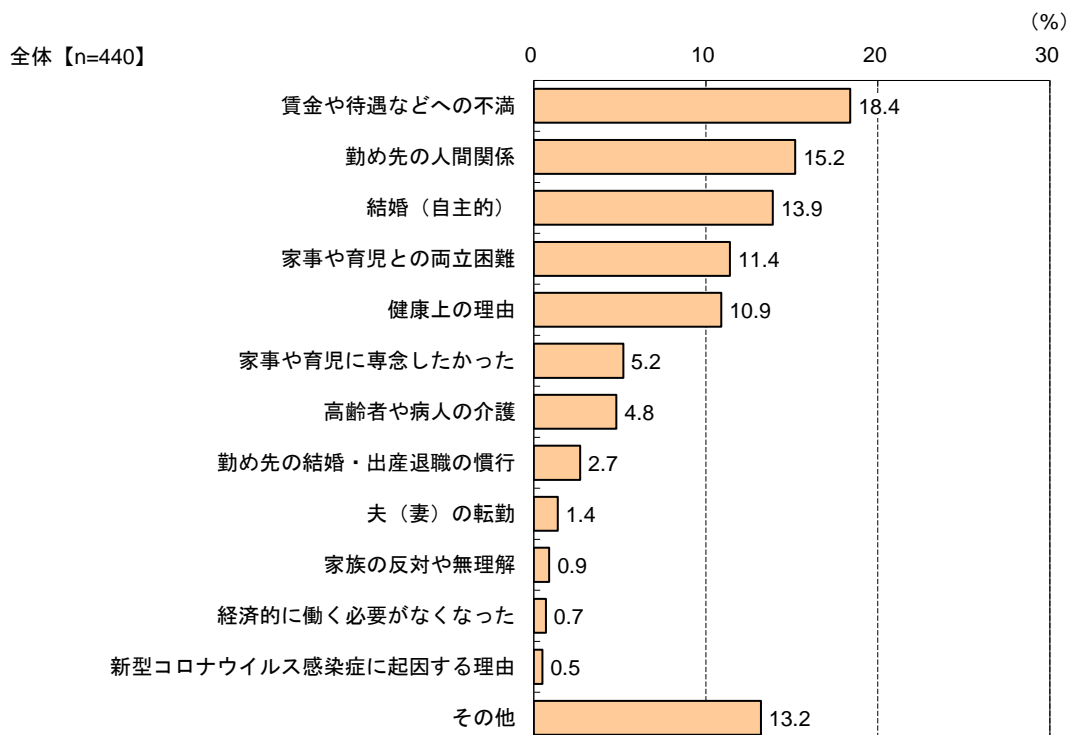
問19 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(○は1つ)



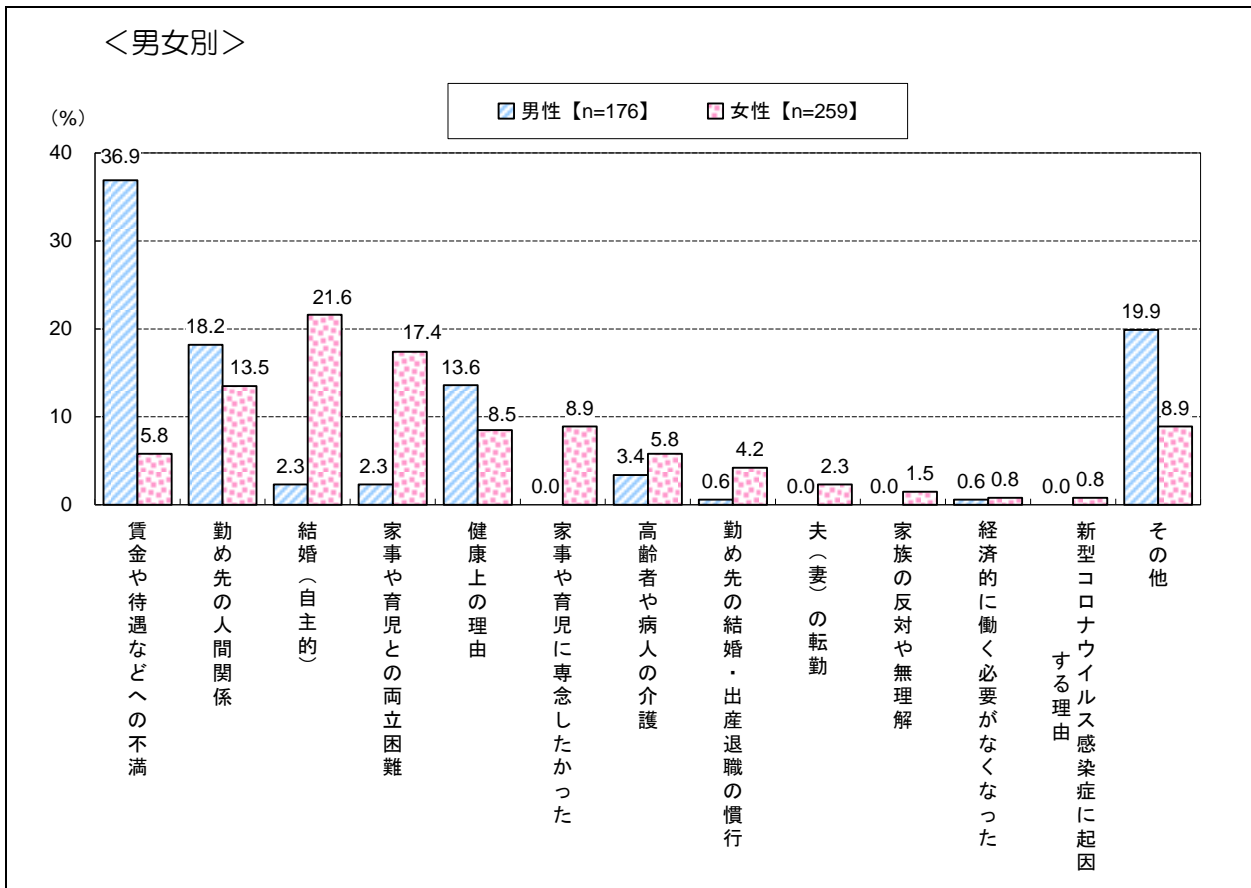
仕事を途中で辞めた経験については、全体では61.3%が「ある」と回答している。男女別に「ある」の割合をみると、男性では55.0%、女性では66.8%となっている。

(5) 《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた理由

問19-1 【問19で「1. ある」に○をつけた方】
仕事を辞めた主な理由は何ですか。(○は1つ)



仕事を途中で辞めたことがあると回答した人にその理由を尋ねたところ、「賃金や待遇などへの不満」が18.4%で最も多く、以下、「勤め先の人間関係」(15.2%)、「結婚(自主的)」(13.9%)、「家事や育児との両立困難」(11.4%)、「健康上の理由」(10.9%)などの順となっている。



男女別にみると、男性では「賃金や待遇などへの不満」、女性では「結婚（自主的）」がそれぞれ最も多く挙げられている。また、女性では「家事や育児との両立困難」が2番目に多く挙げられているが、男性の回答割合は極めて少なくなっている。

5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

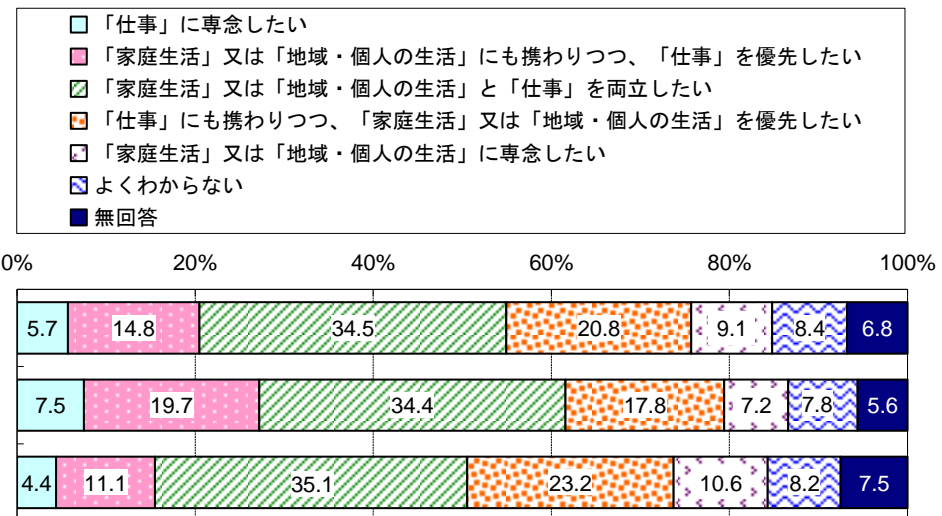
（1）ワーク・ライフ・バランスの理想と現実

問20 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」※の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、現実はどうですか。（現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください）（理想と現実それぞれ1つに○）

※用語の意味

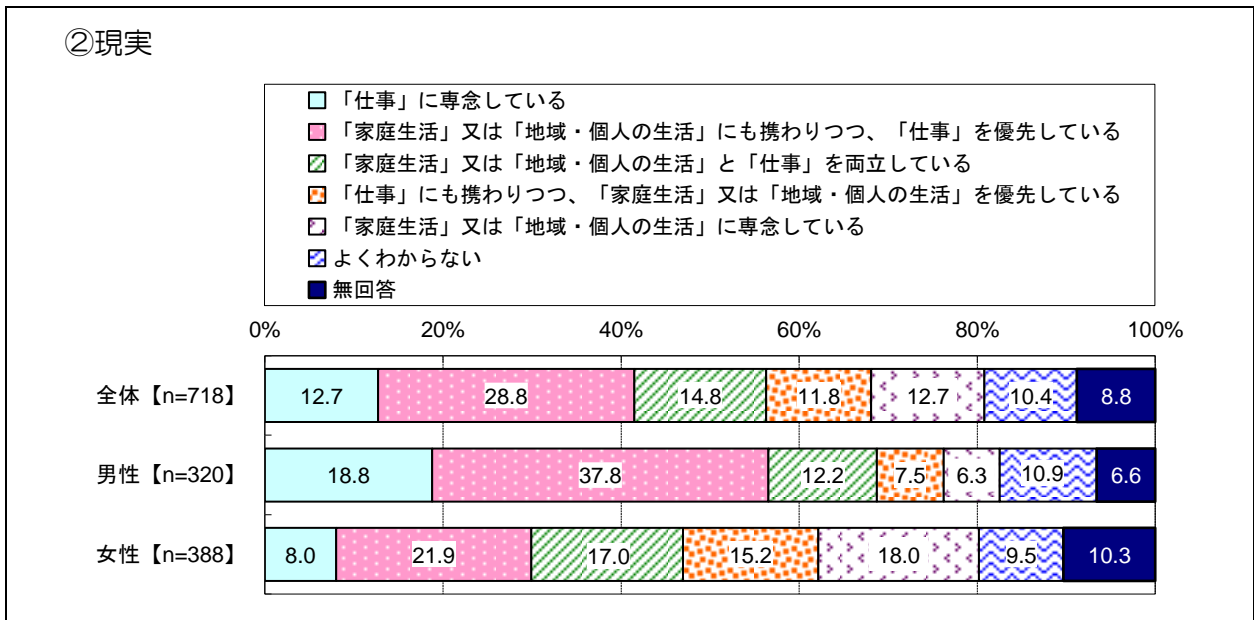
- ・「仕事」…自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。正社員、パートなどを問いません。
- ・「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」…地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

①理想



①理想としての、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の状況については、全体では「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が34.5%で最も多く、次いで「『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先したい」が20.8%で続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が最も多くなっている。

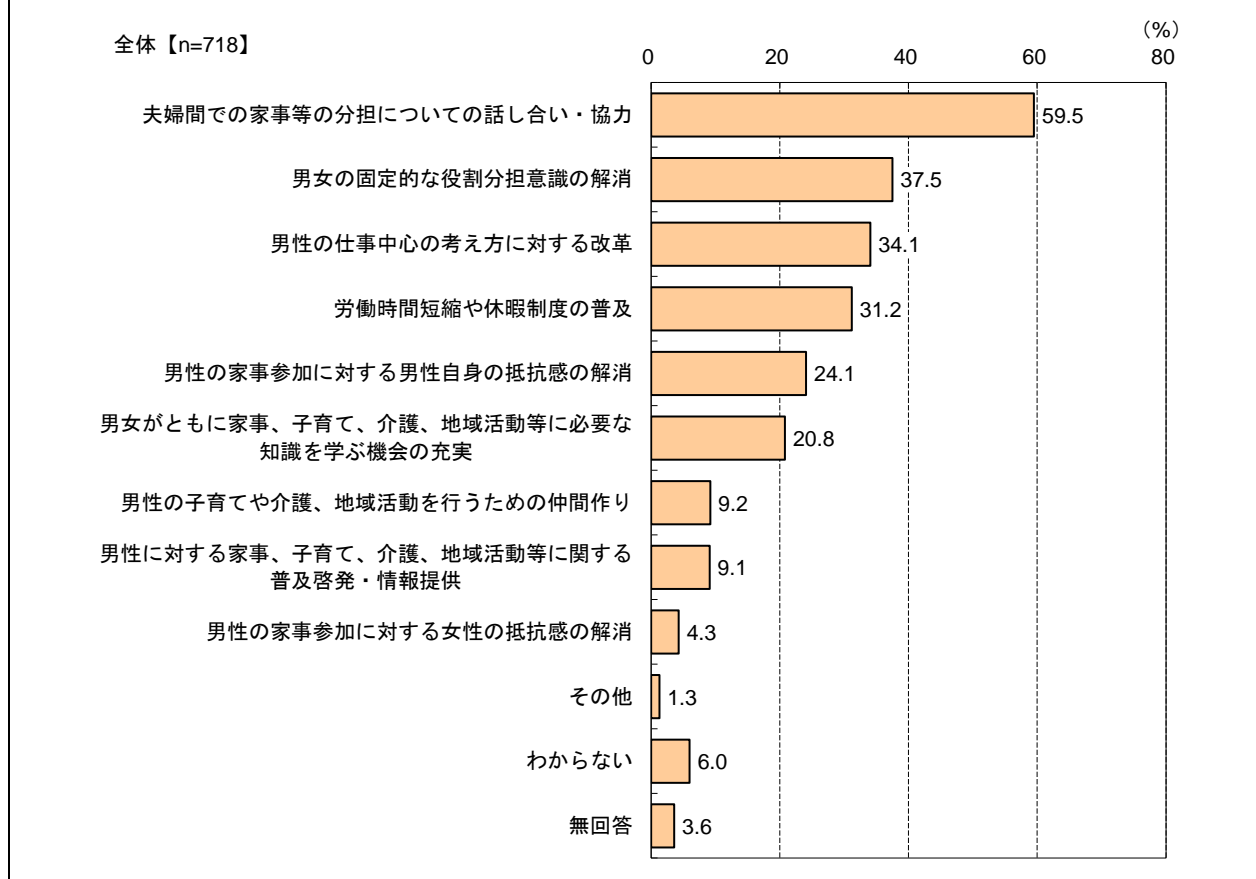


②現実としての、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の状況については、全体では「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先している」が28.8%で最も多く、次いで「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立している」が14.8%が続いている。

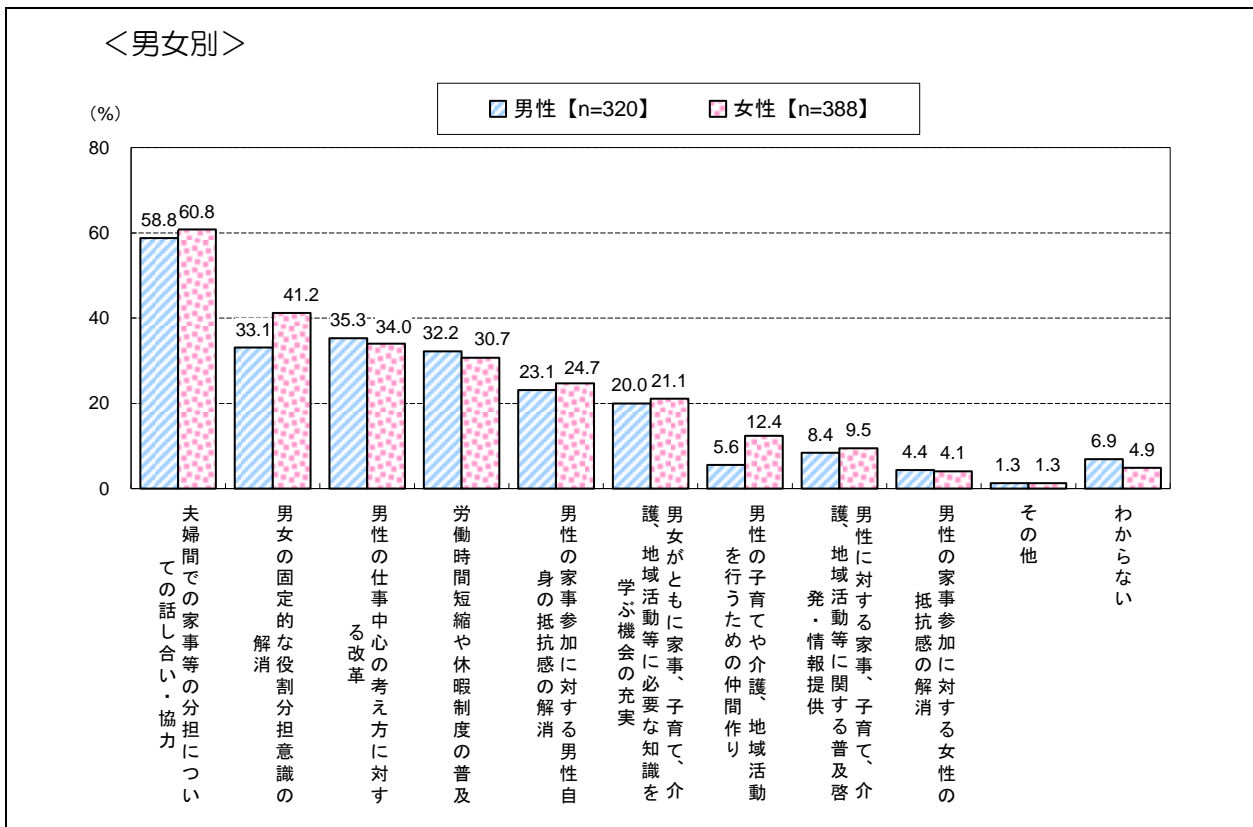
男女別にみると、男性、女性いずれも「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先している」が最も多くなっている。

(2) 男性が家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと

問21 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを尋ねたところ、「夫婦間での家事等の分担についての話し合い・協力」が59.5%で最も多く、以下、「男女の固定的な役割分担意識の解消」(37.5%)、「男性の仕事中心の考え方に対する改革」(34.1%)、「労働時間短縮や休暇制度の普及」(31.2%)、「男性の家事参加に対する男性自身の抵抗感の解消」(24.1%)、「男女がともに家事、子育て、介護、地域活動等に必要な知識を学ぶ機会の充実」(20.8%)などが比較的多く挙げられている。



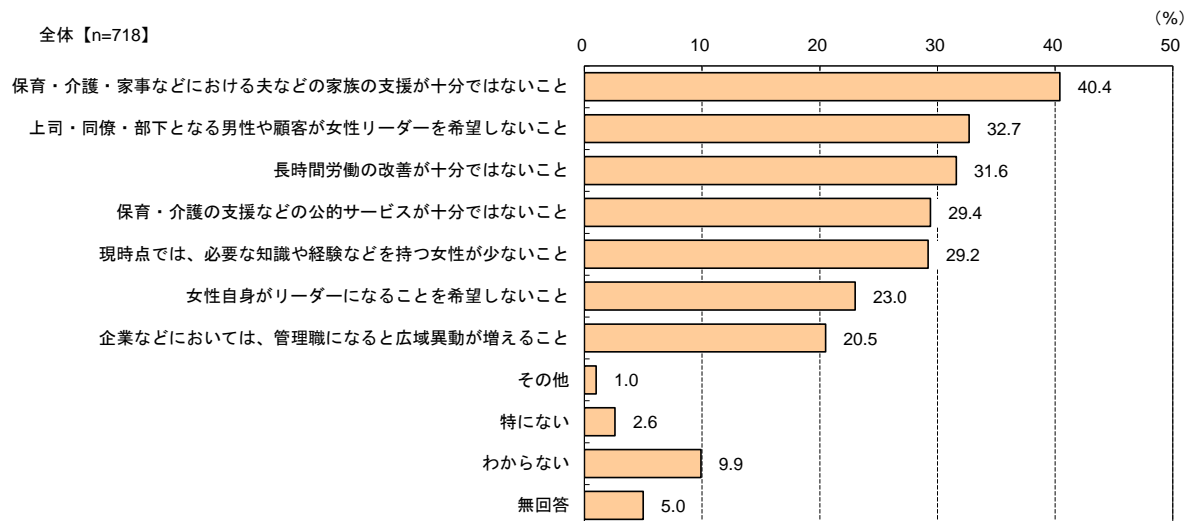
男女別にみると、男性、女性いずれも「夫婦間での家事等の分担についての話し合い・協力」が1位となっているが、男性では「男性の仕事中心の考え方に対する改革」、女性では「男女の固定的な役割分担意識の解消」が2位となっている。

その中で、「男女の固定的な役割分担意識の解消」については、女性のほうが男性よりも回答割合が高く、数値の差も8.1ポイントと比較的大きくなっている。

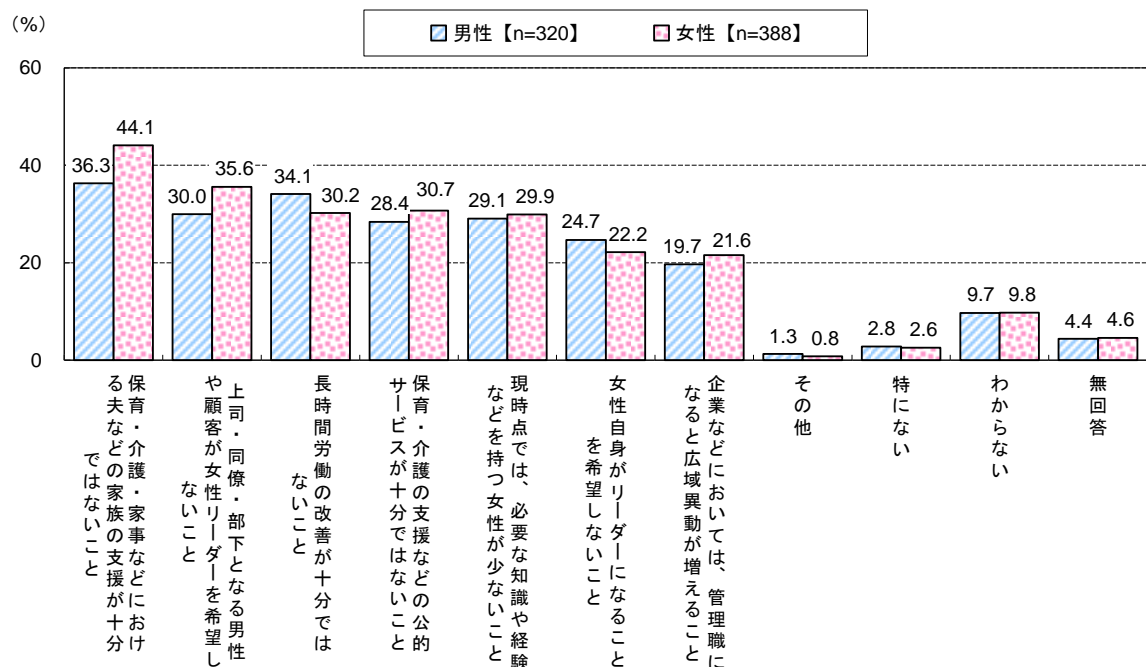
6 女性の活躍について

(1) 女性リーダーを増やす上での障害

問22 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。(〇はいくつでも)



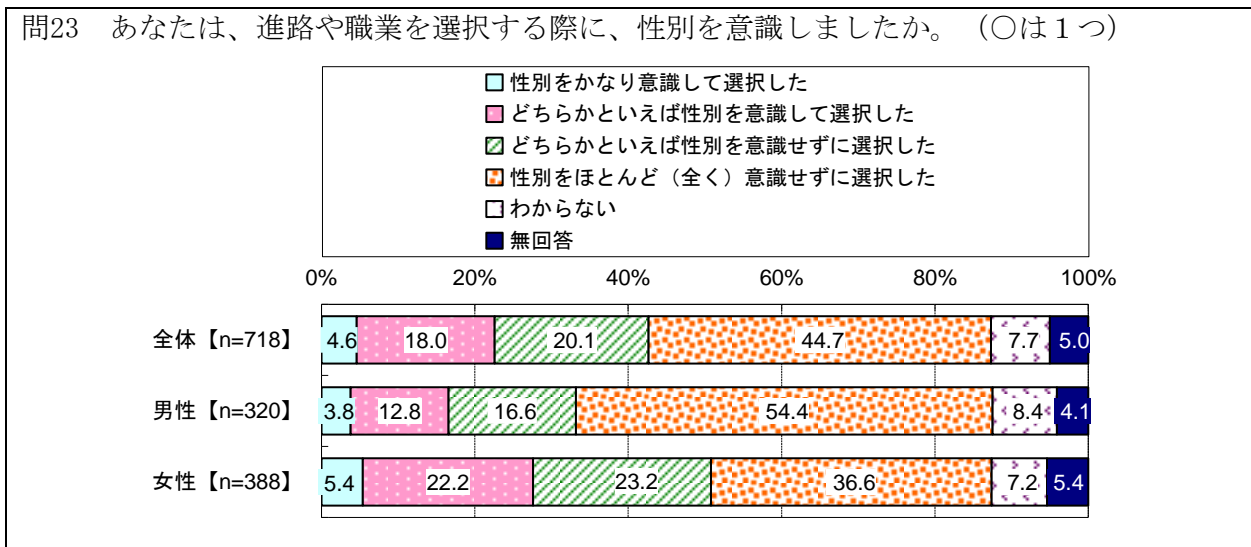
<男女別>



政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて尋ねたところ、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(40.4%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(32.7%)、「長時間労働の改善が十分ではないこと」(31.6%)などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」が最も多くなっている。また、「長時間労働の改善が十分ではないこと」と「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」を除く選択肢の回答割合について、女性の数値が男性の数値を上回っている。

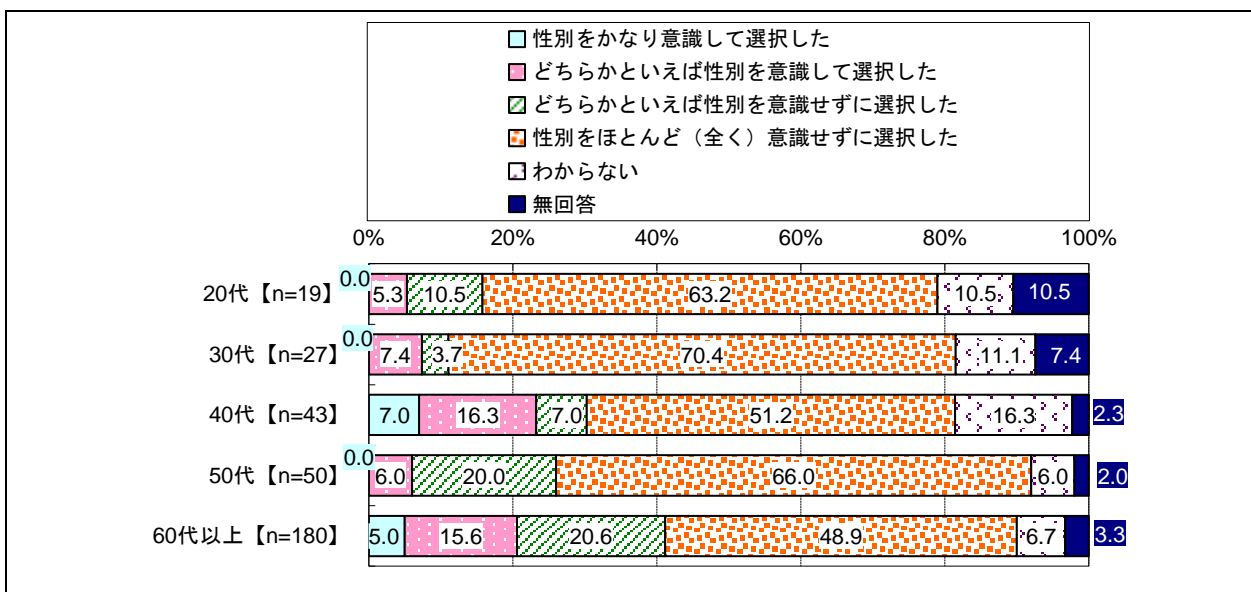
(2) 進路や職業を選択する際に性別を意識したか



進路や職業を選択する際に、性別を意識したか尋ねたところ、全体では「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が44.7%で最も多く、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」が20.1%、「どちらかといえば性別を意識して選択した」が18.0%、「性別をかなり意識して選択した」が4.6%となっている。

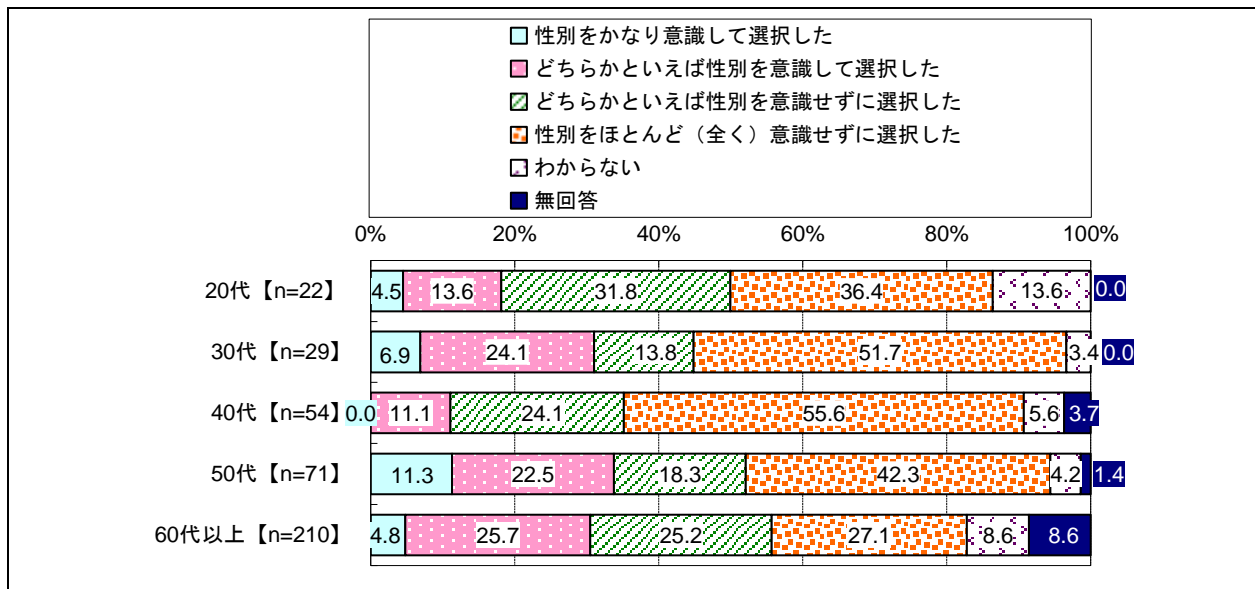
男女別にみると、男性、女性いずれも、「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が最も多くなっており、男性では過半数を占めている。一方、大別して『性別を意識して選択した』(「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」の合計)割合は男性では約2割、女性では約3割と、女性の方が多くなっている。

●年代別クロス集計【男性】



男性について年代別にみると、大別して『性別を意識して選択した』(「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」の合計)割合は、20代が最も低く、40代が最も高くなっている。

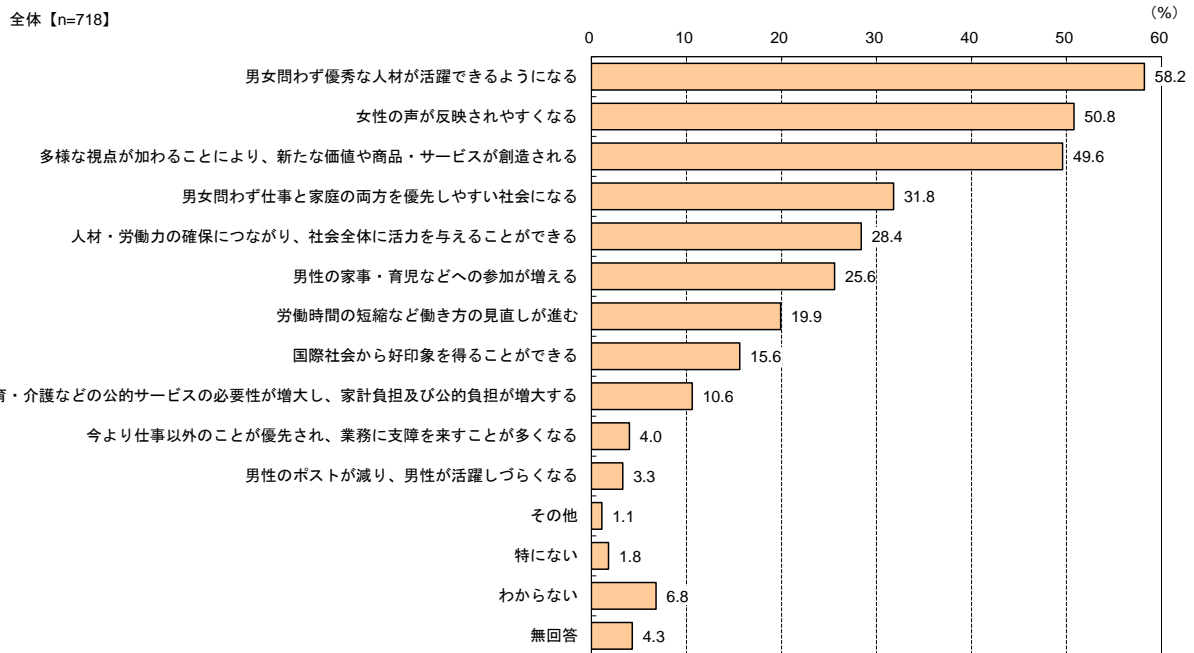
●年代別クロス集計【女性】



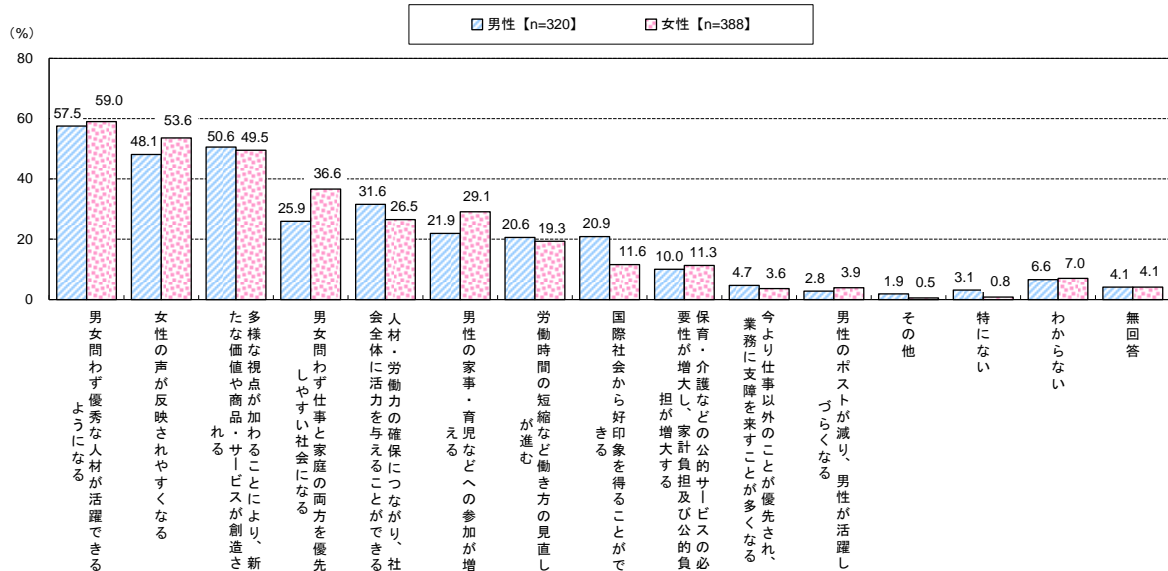
女性について年代別にみると、大別して『性別を意識して選択した』（「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」の合計）割合は、40代で最も低く、30代および50代以上で高い傾向となっている。

(3) 女性リーダーの増加が社会に与える影響

問24 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（〇はいくつでも）



<男女別>



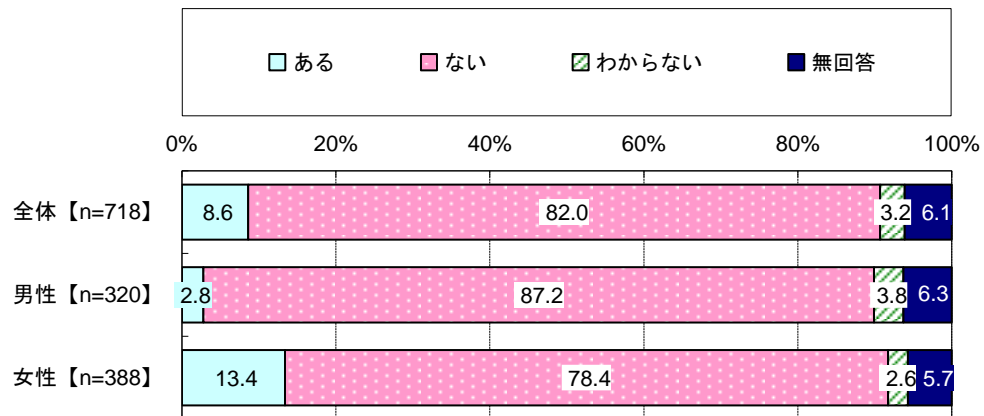
政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか尋ねたところ、全体では「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」（58.2%）、「女性の声が反映されやすくなる」（50.8%）、「多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される」（49.6%）が特に多く挙げられている。

男女別にみると、上位3回答は男女で共通しているが、序列には違いがみられる。女性では4番目に「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が挙げられており、その回答割合は36.6%と男性の数値を10.7ポイント上回っている。

7 人権・配偶者などからの暴力について

(1) DVを受けた経験の有無

問25 配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けた経験はありますか。（○は1つ）



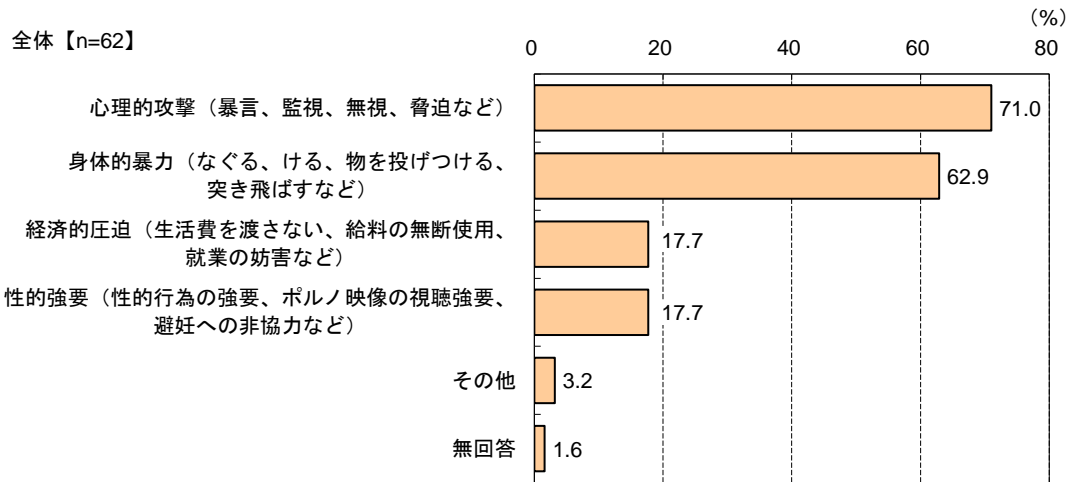
配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「ある」が8.6%、「ない」が82.0%、「わからない」が3.2%となっている。

男女別に暴力を受けたことが「ある」割合をみると、男性では2.8%、女性では13.4%となっている。

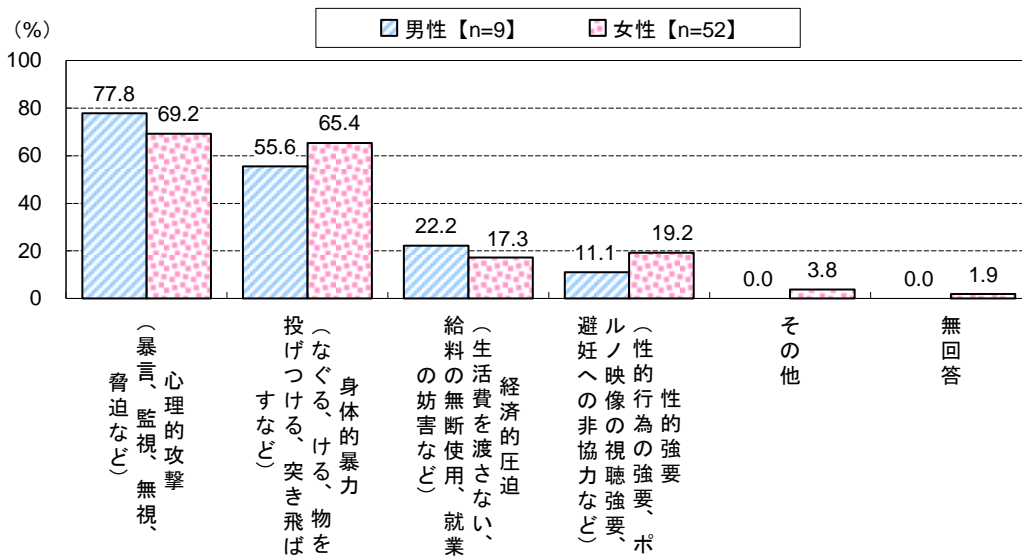
(2) 《DVを受けたことがある人》DVの内容

問25-1 【暴力を受けた経験がある方：問25で「1. ある」に○をつけた方】

それはどのようなことですか。（○はいくつでも）



<男女別>

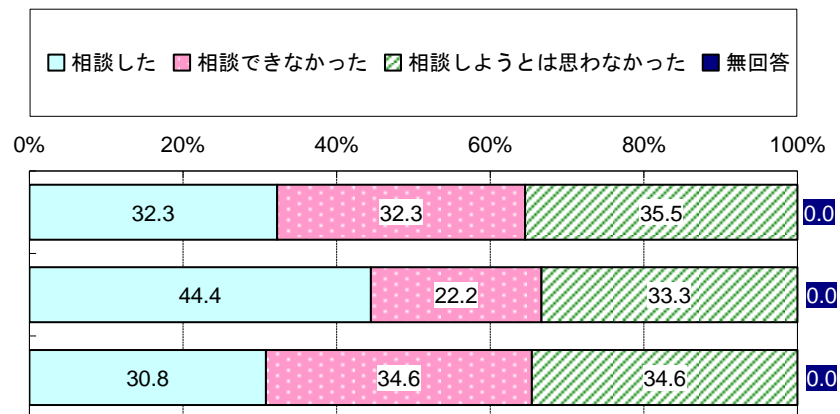


配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けたことがあると回答した人に、どのような行為をされたか尋ねたところ、全体では「心理的攻撃（暴言、監視、無視、脅迫など）」が71.0%で最も多く、以下、「身体的暴力（なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど）」（62.9%）、「経済的圧迫（生活費を渡さない、給料の無断使用、就業の妨害など）」、「性的強要（性的行為の強要、ポルノ映像の視聴強要、避妊への非協力など）」（ともに17.7%）などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも、「心理的攻撃（暴言、監視、無視、脅迫など）」が最も多く挙げられている。さらに、「身体的暴力（なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど）」などは回答割合の男女差が大きく、受けるDVの内容には男女で違いがみられる。

(3) 《DVを受けたことがある人》 受けたDVについて相談したか

問25-2 【暴力を受けた経験がある方：問25で「1. ある」に○をつけた方】
 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (○は1つ)

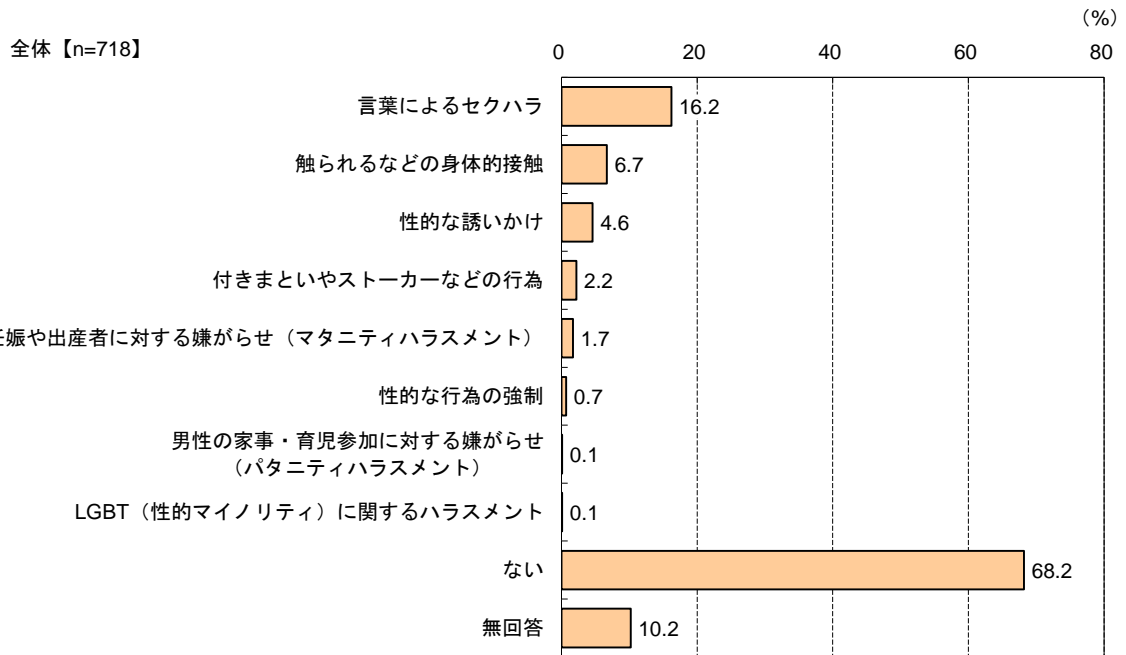


配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けたことがあると回答した人に、受けた行為について誰かに相談したか尋ねたところ、全体では「相談しようと思わなかった」が35.5%、「相談した」、「相談できなかった」がともに32.3%となっている。

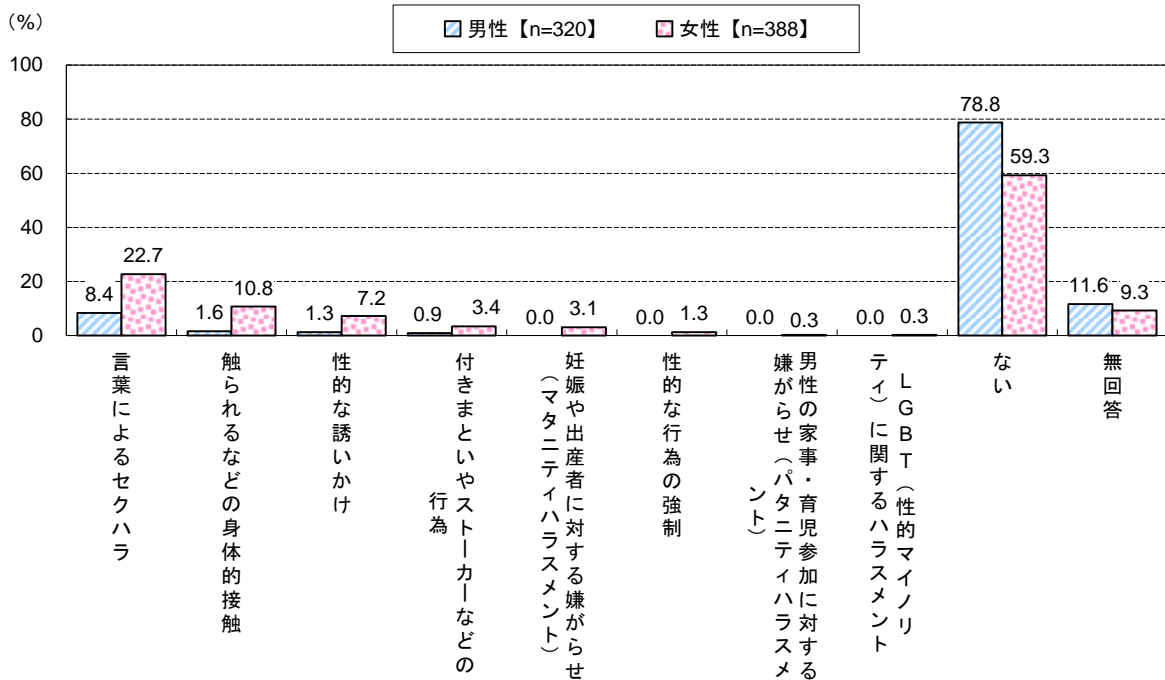
男女別に「相談した」割合をみると、男性では44.4%、女性では30.8%となっている。また、「相談できなかった」割合は、女性は男性より12.4ポイント高くなっている。

(4) ハラスメントを受けた経験の有無

問26 あなたは身近なところで、次のようなハラスメント等を経験したことはありますか。
(○はいくつでも)



<男女別>

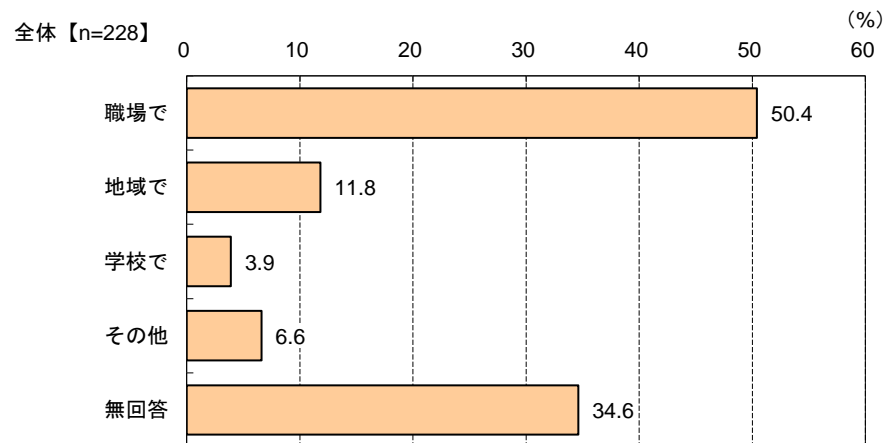


身近なところで、様々なハラスメント等を経験したことがあるか尋ねたところ、全体では「言葉によるセクハラ」が16.2%で最も多く、以下、「触られるなどの身体的接触」(6.7%)、「性的な誘いかけ」(4.6%)、「付きまといやストーカーなどの行為」(2.2%)、「妊娠や出産者に対する嫌がらせ (マタニティハラスメント)」(1.7%)などの順となっている。なお、「ない」と回答した割合は68.2%となっている。

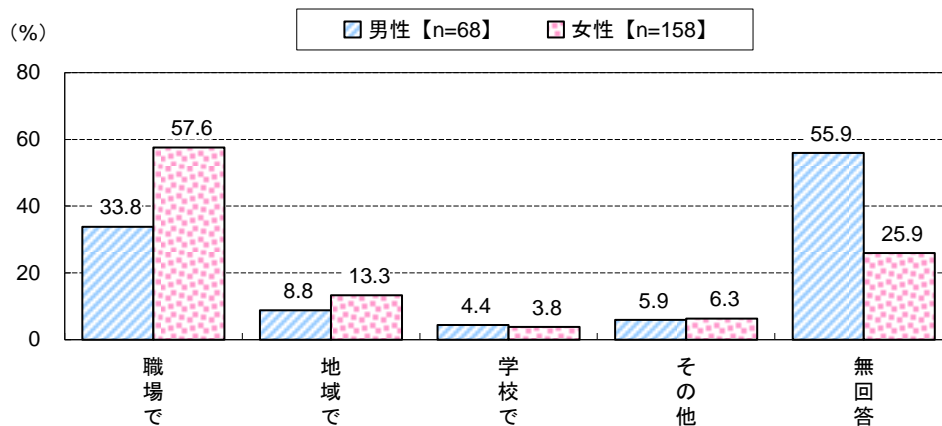
男女別にみると、すべてのハラスメントにおいて、女性は男性より回答割合が高く、特に「言葉によるセクハラ」では女性は男性より14.3ポイント高くなっている。

(5) 《ハラスメントを受けたことがある人》ハラスメントを受けた場所

問26-1 【ハラスメント等を受けた経験がある方：問26で「1」～「8」に○をつけた方】
 それはどこで行われましたか。（○はいくつでも）



<経験した場所>

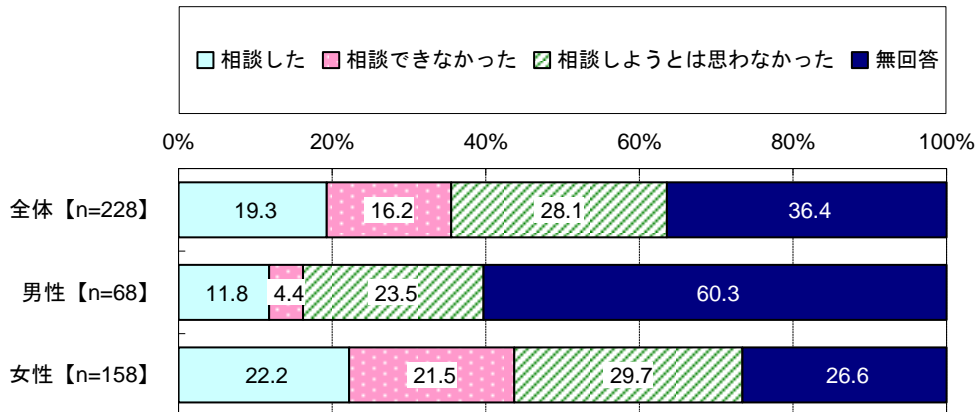


ハラスメント等を受けた経験がある人に、どこで受けたか尋ねたところ、全体では「職場」が50.4%で最も多く、以下、「地域で」（11.8%）、「学校で」（3.9%）の順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「職場で」が最も多くなっており、女性は約6割、男性は約3割となっている。

(6) 《ハラスメントを受けたことがある人》 受けたハラスメントについて相談したか

問26-2 【ハラスメント等を受けた経験がある方：問26で「1」～「8」に○をつけた方】
 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (○は1つ)

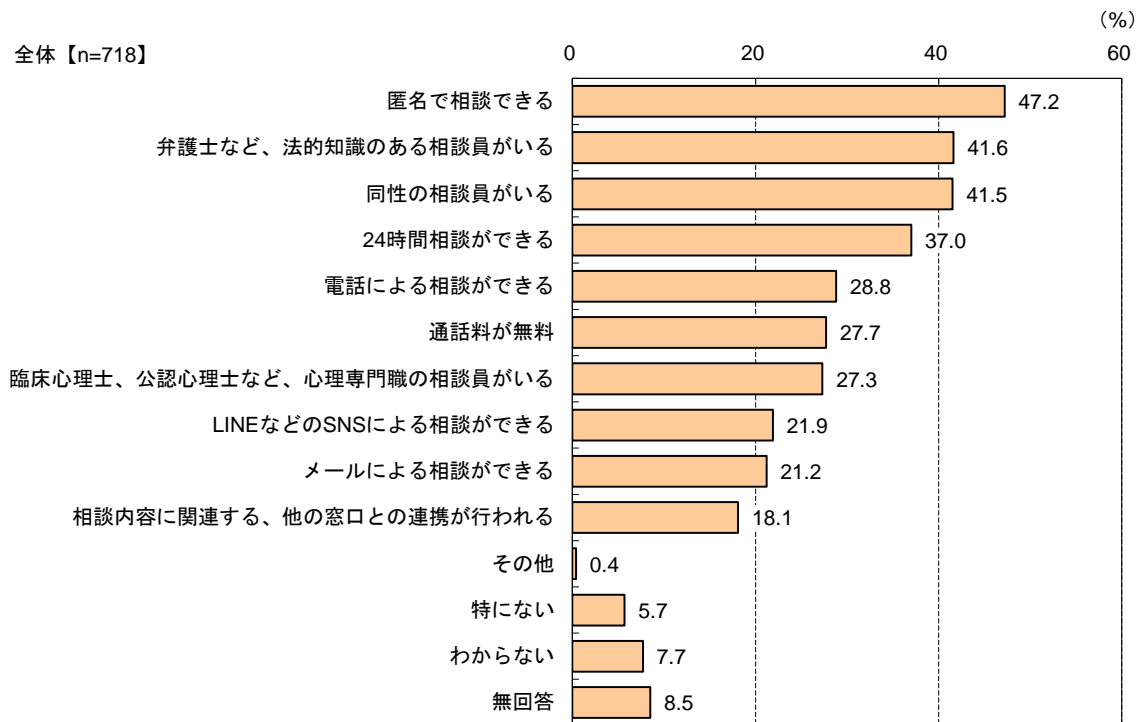


ハラスメント等を受けた経験がある人に、受けた行為について誰かに相談したか尋ねたところ、全体では「相談しようとは思わなかった」が28.1%で最も多く、以下、「相談した」(19.3%)、「相談できなかった」(16.2%)の順となっている。

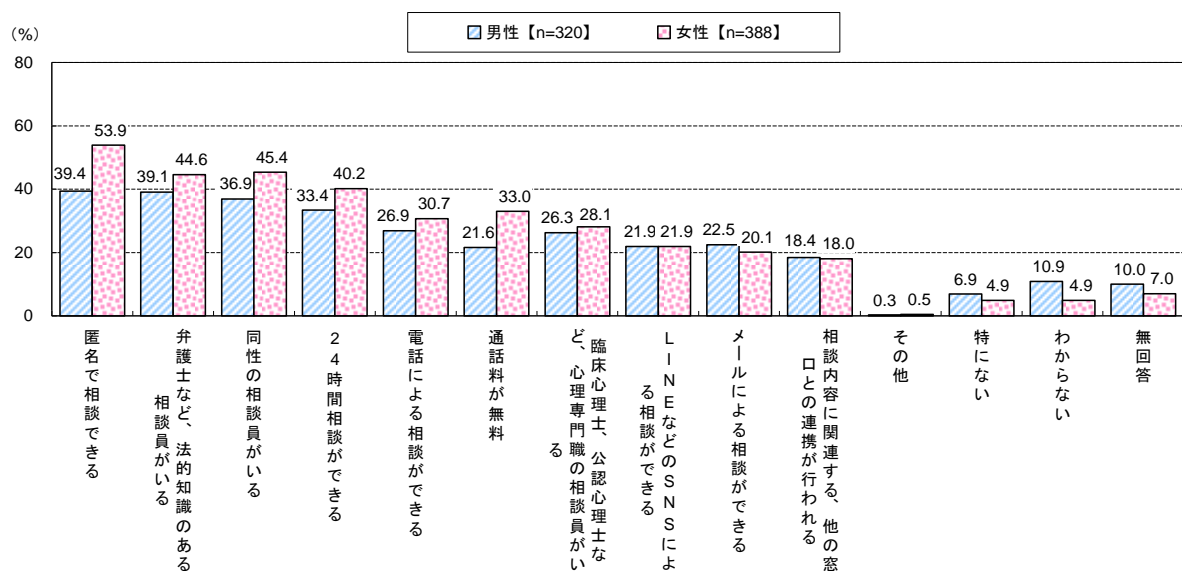
男女別に「相談できなかった」割合をみると、男性では4.4%、女性では21.5%となっている。

(7) 女性に対する暴力や悩みなどの相談窓口などで配慮してほしいこと

問27 女性に対する暴力や悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)



<男女別>



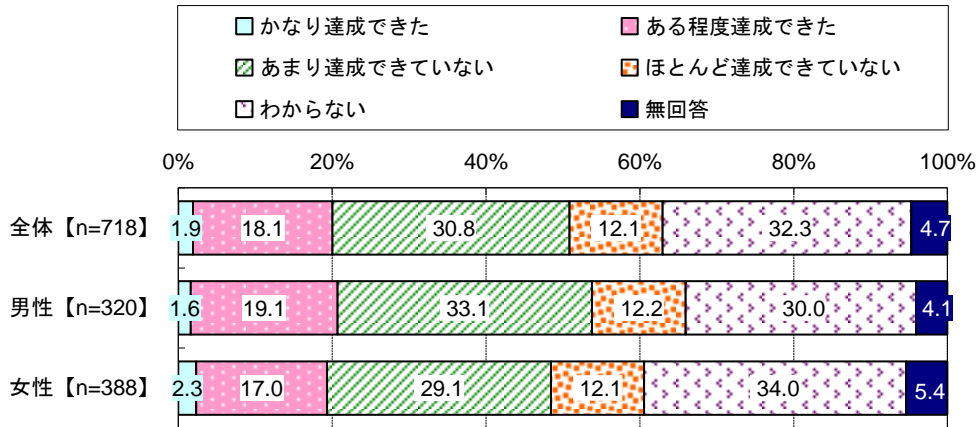
女性に対する暴力や悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいことについて尋ねたところ、全体では、「匿名で相談できる」が47.2%で最も多く、以下、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(41.6%)、「同性の相談員がいる」(41.5%)などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「匿名で相談できる」が最も多くなっており、多くの項目において、女性の回答割合が男性よりも高くなっている。また、「通話料が無料」については、女性の回答割合が男性より11.4ポイント高くなっている。

8 男女共同参画社会について

(1) 男女共同参画社会は達成できたと思うか

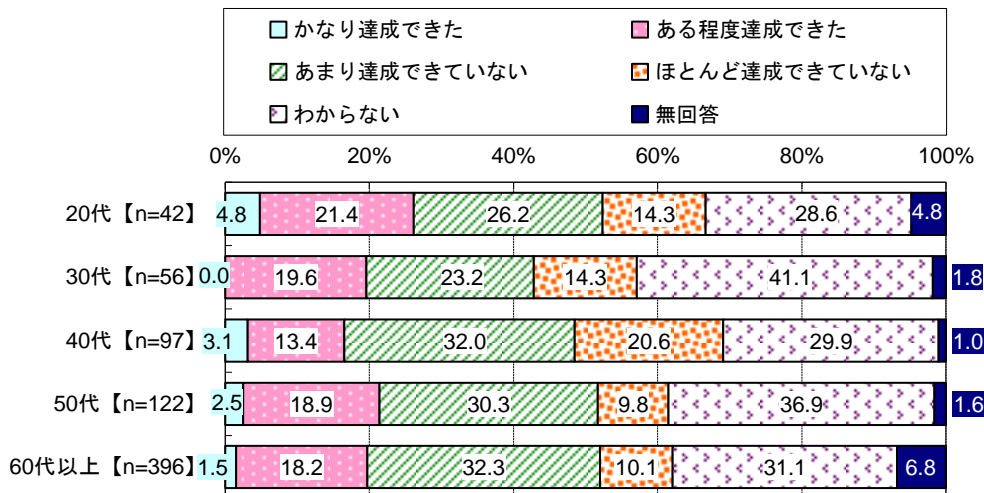
問28 あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は達成できたと思いますか。(○は1つ)



現在、男女共同参画社会は達成できたと思うか尋ねたところ、全体では『達成できた』（「かなり達成できた」と「ある程度達成できた」の合計）割合は20.0%となっている。一方、『達成できていない』（「あまり達成できていない」と「ほとんど達成できていない」の合計）割合は42.9%と、『達成できた』の約2倍となっている。

男女別にみると、女性の「あまり達成できていない」割合が、男性より4.0ポイント低くなっている。

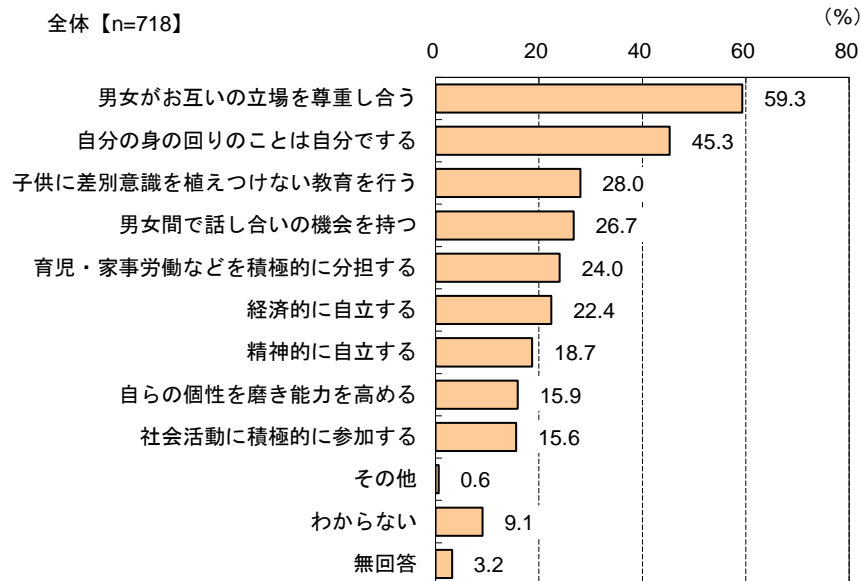
●年代別クロス集計



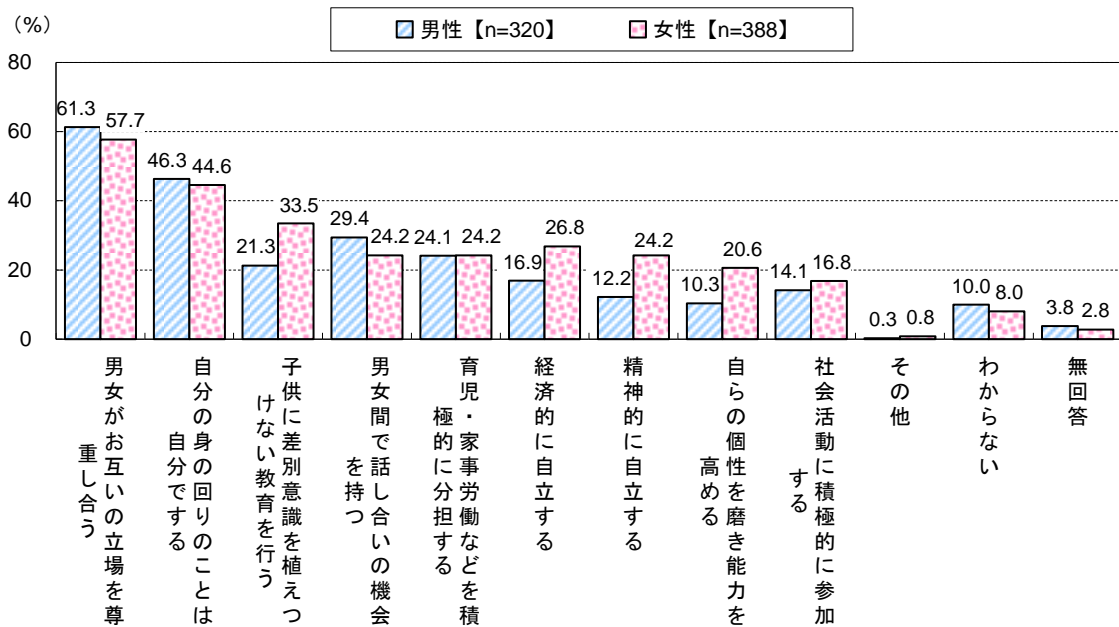
年代別にみると、『達成できた』（「かなり達成できた」と「ある程度達成できた」の合計）の回答割合は、20代が26.2%と最も高くなっており、『達成できていない』（「あまり達成できていない」と「ほとんど達成できていない」の合計）の割合は、40代が52.6%と最も高くなっている。

(2) 男女共同参画社会の実現のために自分にできること

問29 男女共同参画社会の実現のために、あなた自身にできることは何ですか。
(〇はいくつでも)



<男女別>

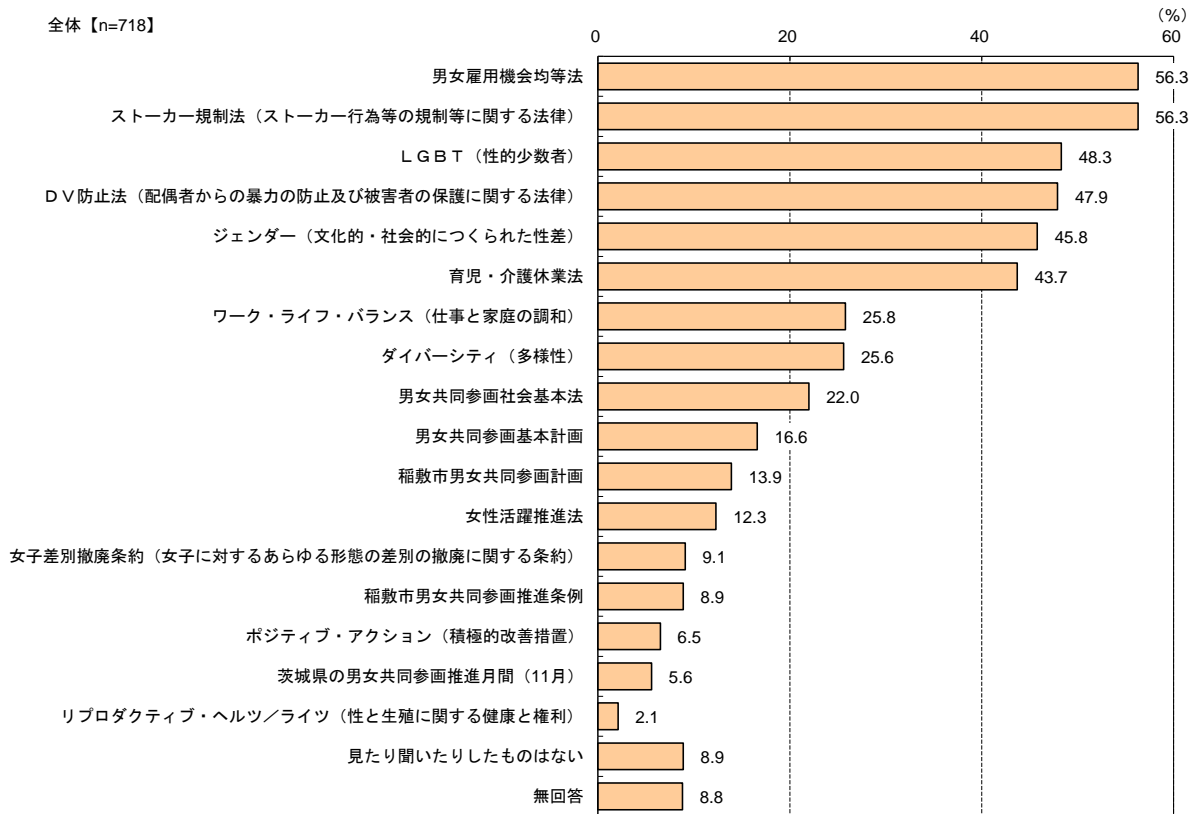


男女共同参画社会の実現のために、あなた自身にできることを尋ねたところ、全体では「男女がお互いの立場を尊重し合う」が59.3%で最も多く、次いで、「自分の身の回りのことは自分です」が45.3%が続いている。以下、「子供に差別意識を植えつけない教育を行う」(28.0%)、「男女間で話し合いの機会を持つ」(26.7%)、「育児・家事労働などを積極的に分担する」(24.0%)、「経済的に自立する」(22.4%)などが比較的多く挙げられている。

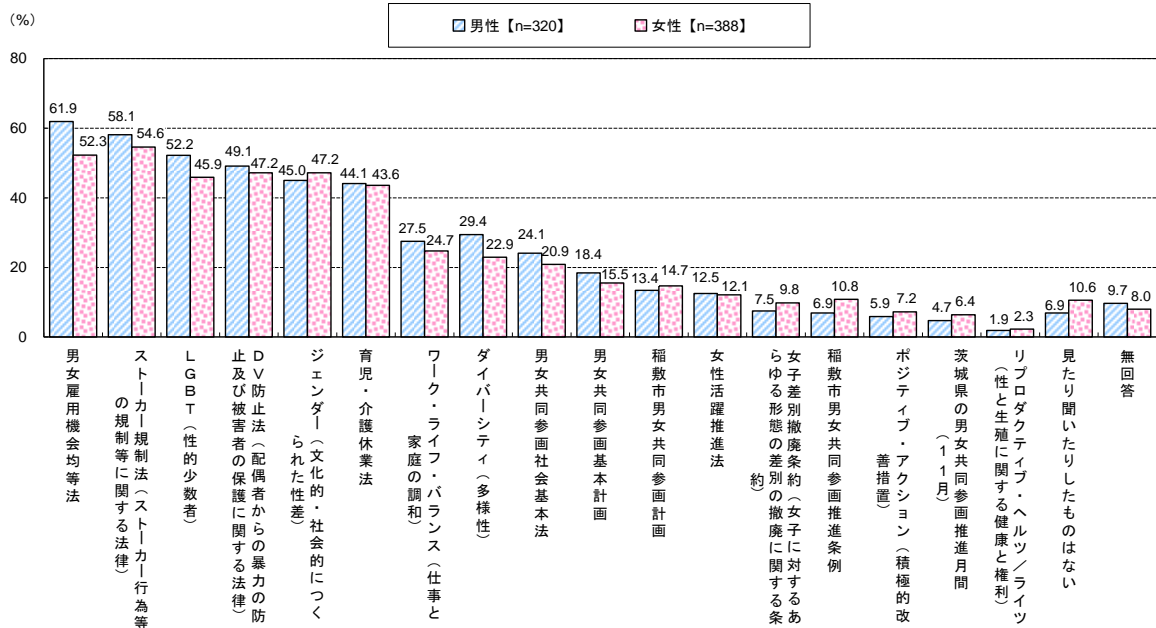
男女別にみると、男性、女性いずれも「男女がお互いの立場を尊重し合う」が1位、「自分の身の回りのことは自分です」が2位と回答傾向が共通しているが、第3位については、男性では「男女間で話し合いの機会を持つ」、女性では「子供に差別意識を植えつけない教育を行う」と意見に違いがみられる。

(3) 男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度

問30 以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。
(〇はいくつでも)



<男女別>

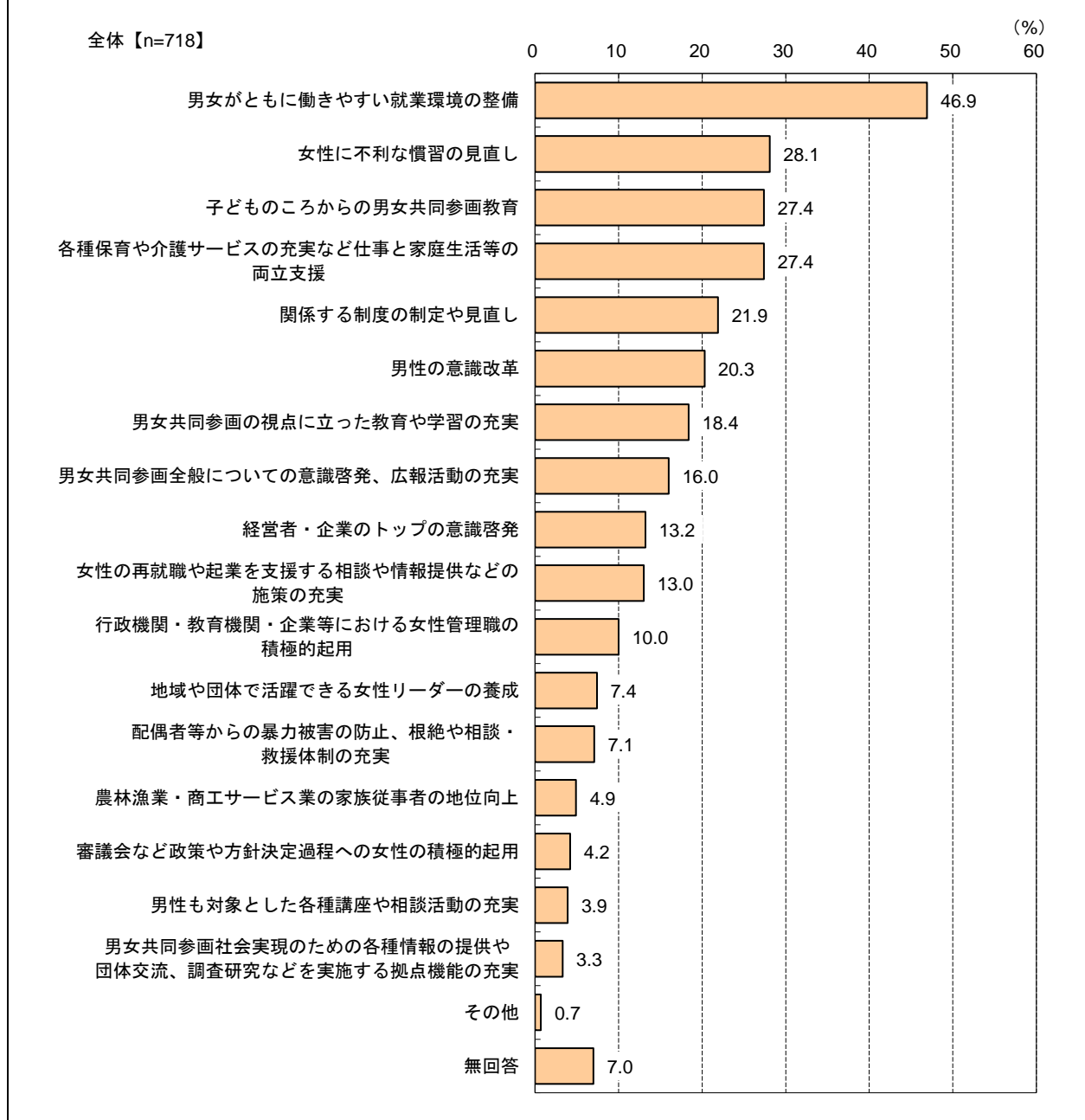


男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度をみると、全体では「男女雇用機会均等法」、「ストーカー規制法」がともに56.3%で最も高く、以下、「LGBT」(48.3%)、「DV防止法」(47.9%)などが上位に挙げられている。

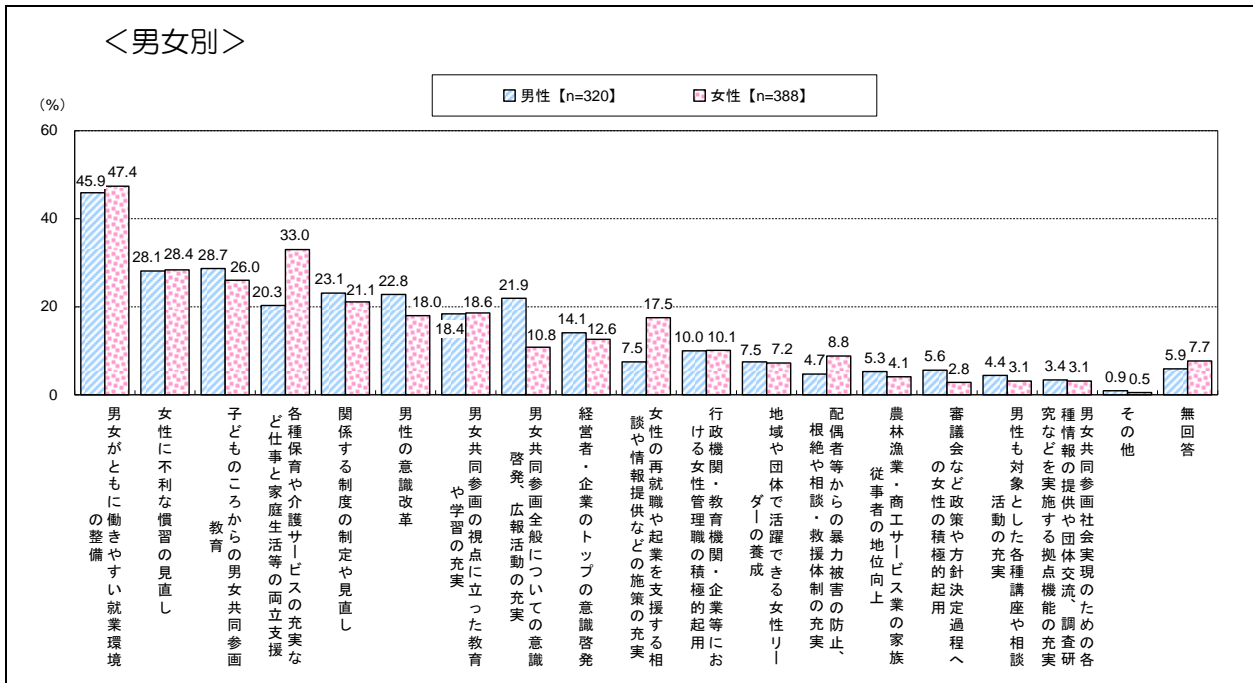
男女別にみると、男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度について、男女差はそれほど大きくない状況がうかがえる。

(4) 男女共同参画社会の実現のために行政が力を入れるべきこと

問31 男女共同参画社会を実現するためには、あなたは、行政（国・県・市）は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○は3つまで）



男女共同参画社会の実現のために、行政が力を入れていくべきことを尋ねたところ、全体では「男女がともに働きやすい就業環境の整備」が46.9%で最も多く、以下、「女性に不利な慣習の見直し」（28.1%）、「子どものころからの男女共同参画教育」、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」（ともに27.4%）、「関係する制度の制定や見直し」（21.9%）、「男性の意識改革」（20.3%）、「男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実」（18.4%）、「男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実」（16.0%）などの順となっている。



男女別にみると、男女いずれも「男女がともに働きやすい就業環境の整備」が約5割と最も多く挙げられている。女性の第2位は「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」となっているが、その回答割合は33.0%と男性の数値を12.7ポイント上回っている。そのほか、「男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実」についても男女の数値の差が大きく、男性の回答割合は21.9%と女性の数値を11.1ポイント上回っており、男女の意見の違いがうかがえる。

●年代別クロス集計（上位回答）

		問31 男女共同参画社会を実現するためには、あなたは、行政(国・県・市)は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。									
		男女がともに働きやすい就業環境の整備	女性に不利な慣習の見直し	子どものころからの男女共同参画教育	各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援	関係する制度の制定や見直し	男性の意識改革	男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実	経営者・企業のトップの意識啓発	女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実
年齢	20代 [n=42]	54.8%	31.0%	28.6%	21.4%	16.7%	11.9%	19.0%	7.1%	16.7%	23.8%
	30代 [n=56]	57.1%	28.6%	28.6%	30.4%	30.4%	26.8%	19.6%	7.1%	14.3%	10.7%
	40代 [n=97]	50.5%	40.2%	34.0%	17.5%	26.8%	27.8%	12.4%	12.4%	14.4%	10.3%
	50代 [n=122]	43.4%	34.4%	24.6%	32.8%	24.6%	25.4%	17.2%	11.5%	14.8%	17.2%
	60代以上 [n=396]	44.7%	23.0%	26.5%	28.5%	18.9%	16.9%	19.9%	20.5%	11.6%	11.4%

年代別に上位回答をみると、第1位については、年代を問わず「男女がともに働きやすい就業環境の整備」が挙げられて共通しているが、第2位、第3位については、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」「子どものころからの男女共同参画教育」「女性に不利な慣習の見直し」「関係する制度の制定や見直し」などが挙げられており、その序列には年代により違いがみられる。

資料編

1 アンケート調査票

稲敷市男女共同参画に関する市民意識調査

----- 調査ご協力をお願い -----

市民の皆様には、日頃から市政に対して格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、稲敷市では、男女共同参画社会の実現を重要課題の1つと掲げ、様々な取組を進めて参りました。この度、「第4次稲敷市男女共同参画計画」を策定するにあたり、市民の皆様のご意見を聞き、今後の取組に反映するためにアンケート調査を実施することといたしました。

調査の実施にあたりましては、20歳以上の市民の皆様から2,000名を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いしております。無記名の調査であることはもちろん、回答結果は統計的に処理いたしますので、個人に関わる情報が公表されることは一切ありません。また、本調査の目的以外に利用することもございませんので、日常のありのままのご様子やご意見をお聞かせ下さい。

お忙しいところ大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

稲敷市長 寛 信太郎

----- <<ご記入に当たってのお願い>> -----

1. 宛名のご本人様がお答えください。事情により、宛名のご本人様がお答えできない場合は、ご家族の方が宛名のご本人様の立場でお答え願います。
2. あてはまる答えの番号を○で囲んでいただくか、番号を記入してください。設問ごとに(○は1つ)(○は3つまで)など指定されていますので、お間違のないようお願いいたします。
3. 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、**問**で「**」と回答した方**など注意書きをよくお読みください。
4. 答えたくない設問については、無理に回答する必要はありません。
5. ご記入いただいた調査票(全16ページ)は、令和3年8月16日(月)までに同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函してください。

◎本調査についてのお問い合わせは、下記をお願いします。

稲敷市役所 行政経営部 秘書政策課 男女共同参画担当
 TEL : 029-892-2000 (代表)
 FAX : 029-892-2062
 E-mail : danjo01@city.inashiki.lg.jp

1 あなたのご自身のことについて

問1 自認する性別をお答えください。(○は1つ)

1. 男性 2. 女性

問2 年齢をお答えください。(○は1つ)

1. 20～24 歳 2. 25～29 歳 3. 30～34 歳 4. 35～39 歳
 5. 40～44 歳 6. 45～49 歳 7. 50～54 歳 8. 55～59 歳
 9. 60～64 歳 10. 65～69 歳 11. 70 歳以上

問3 職業をお答えください。(○は1つ)

1. 農林漁業 2. 自由業・自営業 3. 経営者・会社役員
 4. 会社員 5. 公務員 6. 専業主婦・主夫
 7. 学生 8. 無職 9. その他()

【問3で「4. 会社員」又は「5. 公務員」に○をつけた方】

問3-1 雇用形態をお答えください。(○は1つ)

1. 正社員 2. 契約社員 3. パートタイム・アルバイト 4. その他()

問4 現在お住まいの地区をお答えください。(○は1つ)

1. 江戸崎地区 2. 新利根地区 3. 桜川地区 4. 東地区

問5 現在の世帯構成は、次のどれに当たりますか。(○は1つ)

1. 単身世帯(1人住まい) 2. 1世代世帯(夫婦のみ) 3. 2世代世帯(親と子ども)
 4. 3世代世帯(親と子どもと孫) 5. その他()

問6 あなたのお宅には、現在介護を必要とする高齢者の方はいますか。(○は1つ)

1. いる(同居) 2. いる(別居) 3. いない

問7 結婚(事実婚を含む)されていますか。(○は1つ)

1. 結婚している 2. 離別(離婚)・死別した 3. 結婚していない

問8 お子さんの人数について、現実と理想をお答えください。(それぞれ1つに○)

①現実の人数 (実際にいる人数)	1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人以上
②理想の人数 (もちたい人数)	1. 0人 2. 1人 3. 2人 4. 3人 5. 4人以上 6. わからない

【お子さんがいる方：問8の①で「2～5」のいずれかに○をつけた方】

問8-1 お子さんの年代をお答えください。(○はいくつでも)

1. 3歳未満 2. 3歳以上就学前 3. 小学生 4. 中学生 5. 高校生
6. 大学生、大学院生（短大・専門学校等含む） 7. 社会人

【現実の人数が理想の人数より少ない方：問8で「①現実の人数」が「②理想の人数」より少ない方】

問8-2 その理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 出産・子育ての身体的・心理的負担が大きい 2. 子どもの教育等経済的負担が増える
3. 年齢的な理由 4. 職場の子育てに対する理解や配慮が得られない
5. 子育てに対して配偶者の理解、協力がいない 6. 子育てより自分の時間を大切にしたい
7. 欲しいけれどできない 8. その他（ ）

2 男女の平等に関する意識について

問9 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(①～⑧それぞれ1つに○)

	優 男 性 の 方 が 非 常 に	優 男 性 の 方 が と い え ば	平 等 で あ る	優 女 性 の 方 が と い え ば	優 女 性 の 方 が 非 常 に	わ か ら な い
①家庭生活（家事・育児など）	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④政治の場	1	2	3	4	5	6
⑤町内会・自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6
⑥社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
⑦法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体	1	2	3	4	5	6

問10 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要と思うことは何ですか。

(〇はいくつでも)

1. 法律や制度を見直し、性差別につながるものを改めること
2. 男女の役割分担について社会全体の考え方や様々な偏見や慣習などを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を持つなど、積極的に力をつけること
4. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が就任できる制度を採用すること
5. 仕事中心の社会全体の仕組みを改めること
6. 夫婦間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと
7. 仕事と家庭の両立ができるようにその手助けとなるサービスを行うこと
8. その他 ()
9. わからない

3 男女の生き方や家庭生活に関する意識について

問11 「男は仕事、女は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1. そう思う
2. そうは思わない
3. どちらとも言えない
4. わからない

問12 あなたの家庭では、家事等について、主に誰が行っていますか。また、家計費の管理等について最終的に決めているのは誰ですか。(①～⑧それぞれ1つに〇)

		夫	妻	夫婦 一緒	家族 全員	その他 の人	該当 しない
家事等 の 分 担	①掃除	1	2	3	4	5	6
	②洗濯	1	2	3	4	5	6
	③食事のしたく	1	2	3	4	5	6
	④食事の後片づけ、食器洗い	1	2	3	4	5	6
	⑤育児	1	2	3	4	5	6
	⑥高齢者の世話、介護	1	2	3	4	5	6
決定者	⑦家計費の管理	1	2	3	4	5	6
	⑧全体的な実権(を握っている)	1	2	3	4	5	6

問 1 3 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(①～⑤それぞれ1つに○)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
①人は結婚する方がよい	1	2	3	4	5
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚しないで子どもを持ってもよい	1	2	3	4	5

問 1 4 次にあげる男女の生き方や家庭生活などに関する考えについてどう思いますか。

(①～⑧それぞれ1つに○)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
①「男性（女性）だから」という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう	1	2	3	4	5
②社会の意識や制度・慣行によって男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない	1	2	3	4	5
③仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである	1	2	3	4	5
④男性も家事・育児に積極的に参加すべきである	1	2	3	4	5
⑤男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである	1	2	3	4	5
⑥女性は結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
⑦女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである	1	2	3	4	5
⑧女性（妻）が仕事を持って、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい	1	2	3	4	5

【配偶者・パートナーがいる方：問7で「1. 結婚している」（事実婚を含む）に○をつけた方】

問15 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、夫婦間の家事・育児・介護の役割分担に変化はありましたか。（最も近いもの1つに○）

1. 夫の役割が増えた 2. 夫の役割がやや増えた 3. 夫婦ともに役割が増えた
4. 妻の役割がやや増えた 5. 妻の役割が増えた 6. 変化なし
7. わからない

4 就業について

問16 就業に関する次のことについて、あなたはどのように思いますか。（①～②それぞれ1つに○）

	あると思う	どちらかと思えばある	どちらかと思えばない	ないと思う	わからない
①仕事をこなす能力について男女差はある	1	2	3	4	5
②男性向き、女性向きの仕事内容がある	1	2	3	4	5

問17 一般的に女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つ）

1. 女性は仕事をもたない方がよい 2. 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい 4. 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
5. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
6. その他（ ） 7. わからない

問18 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。（○はいくつでも）

1. 子どもを預けられる環境の整備 2. 家事・育児・介護支援サービスの充実
3. 配偶者以外の家族の家事・育児・介護等への参加 4. 男性と女性の公平な家事・育児・介護の分担
5. 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 6. 働き続けることへの女性自身の意識改革
7. 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革 8. 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
9. 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10. 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
11. その他（ ）
12. 特にない
13. わからない

問19 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(〇は1つ)

1. ある

2. ない

【仕事を辞めた経験がある方：問19で「1. ある」に〇をつけた方】

問19-1 仕事を辞めた主な理由は何ですか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 健康上の理由 | 2. 家事や育児に専念したかった | 3. 家事や育児との両立困難 |
| 4. 高齢者や病人の介護 | 5. 経済的に働く必要がなくなった | 6. 賃金や待遇などへの不満 |
| 7. 勤め先の人間関係 | 8. 結婚(自主的) | 9. 勤め先の結婚・出産退職の慣行 |
| 10. 夫(妻)の転勤 | 11. 家族の反対や無理解 | |
| 12. 新型コロナウイルス感染症に起因する理由 | 13. その他() | |

5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

問20 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」*の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、現実はどうですか。(現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください)(理想と実際それぞれ1つに〇)

※用語の意味

- ・「仕事」…自営業主(農林漁業を含む)、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。正社員、パートなどを問いません。
- ・「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」…地域活動(ボランティア活動、交際・つきあいなど)、学習・研究(学業も含む)、趣味・娯楽、スポーツなど。

①理想	1. 「仕事」に専念したい 2. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい 3. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい 4. 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先したい 5. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念したい 6. よくわからない
②現実	1. 「仕事」に専念している 2. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先している 3. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立している 4. 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先している 5. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念している 6. よくわからない

問 2 1 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 夫婦間での家事等の分担についての話し合い・協力
2. 男女の固定的な役割分担意識の解消
3. 男性の家事参加に対する男性自身の抵抗感の解消
4. 男性の家事参加に対する女性の抵抗感の解消
5. 男性の仕事中心の考え方に対する改革
6. 男性の子育てや介護、地域活動を行うための仲間作り
7. 男性に対する家事、子育て、介護、地域活動等に関する普及啓発・情報提供
8. 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動等に必要な知識を学ぶ機会の充実
9. 労働時間短縮や休暇制度の普及
10. その他 ()
11. わからない

6 女性の活躍について

問 2 2 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
8. その他 ()
9. 特にない
10. わからない

問 2 3 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(〇は1つ)

1. 性別をかなり意識して選択した
2. どちらかといえば性別を意識して選択した
3. どちらかといえば性別を意識せずに選択した
4. 性別をほとんど(全く)意識せずに選択した
5. わからない

問 2 4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えることのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 女性の声が反映されやすくなる
4. 国際社会から好印象を得ることができる
5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
6. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
8. 男性の家事・育児などへの参加が増える
9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
10. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
12. その他 ()
13. 特にない
14. わからない

7 人権・配偶者などからの暴力について

問 2 5 配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けた経験はありますか。(〇は1つ)

1. ある 2. ない 3. わからない

※本問の「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、交際相手も含まれます。

→ 【暴力を受けた経験がある方：問 2 5 で「1. ある」に〇をつけた方】

問 2 5-1 それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1. 身体的暴力（なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど）
2. 心理的攻撃（暴言、監視、無視、脅迫など）
3. 経済的圧迫（生活費を渡さない、給料の無断使用、就業の妨害など）
4. 性的強要（性的行為の強要、ポルノ映像の視聴強要、避妊への非協力など）
5. その他 ()

→ 【暴力を受けた経験がある方：問 2 5 で「1. ある」に〇をつけた方】

問 2 5-2 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)

1. 相談した 2. 相談できなかった 3. 相談しようとは思わなかった

問 2 6 あなたは身近なところで、次のようなハラスメント等を経験したことはありますか。
(○はいくつでも)

- | | | |
|-------------------------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 言葉によるセクハラ | 2. 性的な誘いかけ | 3. 触られるなどの身体的接触 |
| 4. 性的な行為の強制 | 5. 付きまといやストーカーなどの行為 | |
| 6. 妊娠や出産者に対する嫌がらせ (マタニティハラスメント) | | |
| 7. 男性の家事・育児参加に対する嫌がらせ (パタニティハラスメント) | | |
| 8. LGBT (性的マイノリティ) に関するハラスメント | | |
| 9. ない | | |

【ハラスメント等を受けた経験がある方：問 2 6 で「1」～「8」に○をつけた方】

問 2 6 - 1 それはどこで行われましたか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|--------|--------|--------|------------|
| 1. 職場で | 2. 学校で | 3. 地域で | 4. その他 () |
|--------|--------|--------|------------|

【ハラスメント等を等を受けた経験がある方：問 2 6 で「1」～「8」に○をつけた方】

問 2 6 - 2 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は 1 つ)

- | | | |
|---------|-------------|------------------|
| 1. 相談した | 2. 相談できなかった | 3. 相談しようとは思わなかった |
|---------|-------------|------------------|

問 2 7 女性に対する暴力や悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。
(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. メールによる相談ができる | 2. LINE などの SNS による相談ができる |
| 3. 電話による相談ができる | 4. 通話料が無料 |
| 5. 24 時間相談ができる | 6. 相談内容に関連する、他の窓口との連携が行われる |
| 7. 同性の相談員がいる | 8. 匿名で相談できる |
| 9. 弁護士など、法的知識のある相談員がいる | |
| 10. 臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる | |
| 11. その他 () | 12. 特にない 13. わからない |

8 男女共同参画社会について

【参考資料】

「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」です。

「男女共同参画社会」を実現するための基本理念を定めた「男女共同参画社会基本法」が平成 11 年に成立して、今年で 22 年目になります。

問 2 8 あなたは、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、現在、男女共同参画社会は達成できたと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり達成できた | 2. ある程度達成できた |
| 3. あまり達成できていない | 4. ほとんど達成できていない |
| 5. わからない | |

問 2 9 男女共同参画社会の実現のために、あなた自身にできることは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 自分の身の回りのことは自分です | 2. 男女間で話し合いの機会を持つ |
| 3. 経済的に自立する | 4. 精神的に自立する |
| 5. 自らの個性を磨き能力を高める | 6. 男女がお互いの立場を尊重し合う |
| 7. 育児・家事労働などを積極的に分担する | 8. 子供に差別意識を植えつけない教育を行う |
| 9. 社会活動に積極的に参加する | 10. その他 () |
| 11. わからない | |

問 3 0 以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約） |
| 2. 男女共同参画社会基本法 |
| 3. 男女共同参画基本計画 |
| 4. 男女雇用機会均等法 |
| 5. 育児・介護休業法 |
| 6. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律） |
| 7. 稲敷市男女共同参画推進条例 |
| 8. 稲敷市男女共同参画計画 |
| 9. ストーカー規制法（ストーカー行為等の規制等に関する法律） |
| 10. 茨城県の男女共同参画推進月間（11月） |
| 11. ジェンダー（文化的・社会的につくられた性差） |
| 12. ポジティブ・アクション（積極的改善措置） |
| 13. リプロダクティブ・ヘルツ／ライツ（性と生殖に関する健康と権利） |
| 14. ダイバーシティ（多様性） |
| 15. L G B T（性的少数者） |
| 16. 女性活躍推進法 |
| 17. ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和） |
| 18. 見たり聞いたりしたものはない |

稲敷市 男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和3年10月

発行 : 稲敷市
企画・編集 : 稲敷市 行政経営部 秘書政策課
